

自動シャットダウンソフトウェア

PowerAttendant Standard Edition
Windows 版 Ver.1.1.1

取扱説明書

はじめに

本取扱説明書には本ソフトウェアをご使用いただくための重要なことが書かれていますので、ご使用される前に必ずお読みください。

- 本取扱説明書は、必要なときはいつでも確認できるようにしておいてください。
- 本取扱説明書の内容の一部または全部を無断で複製、転載することは禁止されています。
- 本取扱説明書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本取扱説明書に記載している画面やイラストはイメージです。実際とは異なる場合があります。

登録商標について

- 「PowerAttendant」はオムロン株式会社の登録商標です。
- Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他、各会社名、各社製品名は各社の商標または登録商標です。

対象となる製品

- 本取扱説明書は以下の製品を対象にしています。
 - ・ PowerAttendant Standard Edition

対象となる読者の方々

- 本取扱説明書は、次の方を対象に記述しています。
 - ・ Windows 用のソフトウェアを使用する知識を有し、UPS の導入／運用を担当される方

目次

はじめに	2
使用上のご注意	5
取扱説明書の読み方.....	8
本取扱説明書に記載してあること	8
ページ構成と記号について	8
マークについて	8
表記について	8
用語説明	9
動作環境	10
1. 機能概要	11
1-1 主な機能.....	11
1-2 自動シャットダウン機能の設定手順.....	14
2. コンピュータとの接続.....	16
2-1 USB 接続	16
2-2 RS-232C 接続.....	17
3. インストール.....	18
3-1 インストールの手順	18
3-1-1 インストールの前に.....	18
3-1-2 .NET 6.0 のインストール.....	19
3-1-3 本ソフトウェアのインストール.....	20
3-2 本ソフトウェアを起動する	24
3-3 初回起動時の設定	24
4. 画面と操作	25
4-1 画面構成.....	25
4-2 タスクトレイアイコン	26
4-3 メニュー一覧.....	27
4-4 ログインとログアウト	29
4-4-1 ログイン	29
4-4-2 ログアウト.....	30
5. 画面説明	31
5-1 トップ.....	31

5-2 シャットダウンパラメータ	32
5-2-1 基本設定	32
5-2-2 オプション設定	37
5-3 ログ	39
5-3-1 イベントログ	40
5-3-2 操作履歴ログ	41
5-3-3 タスク履歴ログ	42
5-3-4 データログ	43
5-3-5 増設バッテリーログ	44
5-3-6 ログ設定	45
5-4 連携シャットダウン	46
5-4-1 プライマリ設定	46
5-4-2 セカンダリ設定（プライマリと連携）	47
5-4-3 セカンダリ設定（ネットワークカードと連携）	48
5-5 スマートタスク	50
5-5-1 タスク一覧	51
5-5-2 通信ターゲット一覧	52
5-5-3 スクリプト一覧	53
5-5-4 手動実行	55
5-6 スケジュール	57
5-6-1 スケジュール登録	59
5-6-2 動作	61
5-7 COM 設定	62
5-8 設定ファイル	63
5-9 UPS 設定	64
5-9-1 基本設定	64
5-9-2 出力開始設定	65
5-10 UPS 制御	67
5-11 ユーザ管理	69
5-11-1 パスワード変更	69
5-11-2 ログイン ID 変更	70
5-12 その他	71
5-13 ヘルプ	72
5-13-1 バージョン情報	72
6. アンインストール	74
6-1 アンインストールの前に	74
6-2 本ソフトウェアのアンインストール	74
7. トラブルシューティング	76

使用上のご注意

＜本ソフトウェアの用途について＞

本ソフトウェアは、コンピュータなどの **OA** 機器もしくは **FA** 機器に使用することを目的に設計・製造されています。以下のような、極めて高い信頼性や安全性が要求される機器、用途には使用しないでください。

- ・ 人命に直接かかわる医療機器やシステム
- ・ 人身の損傷に至る可能性のある用途。（航空機、船舶、鉄道、エレベータなどの運行、運転、制御などに直接関連する用途）
- ・ 車載、船舶など常に振動が加わる可能性がある用途
- ・ 故障すると社会的、公共的に重大な損害や影響を与える可能性のある用途。
（主要な電子計算機システム、幹線通信機器、公共の交通システムなど）
- ・ これらに準ずる機器、用途

＜本ソフトウェアの使用について＞

本ソフトウェアは、ファイアウォールで守られている等、外部からのセキュリティ対策が講じられている安全な環境下で使用してください。

＜ソフトウェア使用許諾契約書＞

このソフトウェアのダウンロード、インストール又は使用に際しては、次のソフトウェア使用許諾契約書（以下本契約）の内容が適用されることに同意いただく必要があります。ご同意いただけない場合には、このソフトウェアをダウンロードし、コンピュータにインストールし又は使用しないでください。

このソフトウェア使用許諾契約書（以下「本契約」）は、オムロン ソーシャルソリューションズ株式会社（以下オムロン）がお客様に許諾ソフトウェア（第1項の定義による）を使用許諾する条件を定めたものです。

許諾ソフトウェアのダウンロード、インストール又は使用に際しては、本契約の内容が適用されることに同意いただく必要があります。

1. 本契約において、次の各号に掲げる用語の意味は、当該各号に定めるところによります。
 - (1) 「エンドユーザ」とは、オムロン **UPS** 及び許諾ソフトウェアが組み込まれたお客様製品を自己のもので使用する最終使用者をいいます。
 - (2) 「お客様製品」とは、お客様が製造及び販売する機器又はシステムソフトウェアをいいます。
 - (3) 「オムロン **UPS**」とは、お客様又はエンドユーザがオムロンから直接又は販売店その他の第三者を通して購入したオムロンの無停電電源装置（**UPS**）をいいます。
 - (4) 「許諾コンピュータ」とは、1台又は複数のコンピュータであって、お客様又はエンドユーザが所有し、かつ、1台のオムロン **UPS** から電源供給を受けているものをいいます。
 - (5) 「許諾ソフトウェア」とは、コンピュータ・プログラム「**PowerAttendant Standard Edition**」及びそれに関連する一切のドキュメントで当該プログラムとともに配付されるものをいいます。
2. オムロンは、お客様に対し、本契約に基づき許諾ソフトウェアに関し次に掲げる非独占的権利を許諾します。
 - (1) オムロン **UPS** を監視及び管理する目的に限り、一つ又は複数の許諾ソフトウェアの複製物を作成し、許諾コンピュータにおいて当該複製物を使用する権利。
 - (2) オムロン **UPS** を監視及び管理する目的に限り、一つ又は複数の許諾ソフトウェアの複製物をオブジェクトコードの形式で作成し、オムロン **UPS** 及び許諾ソフトウェアを組み込んだお客様製品の一部として直接又は販売店その他の第三者を通してエンドユーザに対しこれを頒布する権利。

- (3) 前号による頒布の目的に限り、ハードディスクドライブのクローニング（複製）のためのマスター・ハードディスクドライブ（ハードディスクドライブ・イメージを含む）の一部としてオブジェクトコード形式で許諾ソフトウェアの複製物を作成する権利
- (4) バックアップの目的に限り、一つの許諾ソフトウェアの複製物を作成する権利
3. 許諾ソフトウェアは、前項により使用許諾されるものであり、許諾ソフトウェアに関する著作権その他の知的財産権が本契約に基づきお客様に移転することはありません。お客様は、前項に基づき明示的に許諾されたものを除き、許諾ソフトウェアに関する次に掲げる行為を行うことはできません。
- (1) 複製又は改変
- (2) 第三者への再使用許諾、譲渡又は貸与
- (3) 逆コンパイル、逆アセンブリ、リバースエンジニアリングその他これらに類する行為
- (4) 外国為替及び外国貿易管理法その他お客様に適用される輸出管理規制に違反する行為
4. お客様は、許諾ソフトウェアに含まれる情報を機密として取扱い、第三者へ開示しないものとします。
5. お客様が許諾ソフトウェアのライセンスを購入した日又はお客様が許諾ソフトウェアをインストールした日のいずれか早く到来する日から 90 日以内に許諾ソフトウェアの作動のマニュアルへの重大な不一致があることを発見してオムロンにその旨を通知した場合、オムロンは、当該不一致が当該期間内にお客様から書面で報告され、かつ、再現可能であるときに限り、オムロンの費用負担で当該許諾ソフトウェアを交換し又は当該不一致を修正いたします。
- 当該交換又は修正によって当該不一致のすべてが除去されるものではありません。
- オムロンは、オムロンの選択により、当該交換又は修正に代えてお客様が許諾ソフトウェアを購入するために支払った費用を返金することができます。この場合、この契約は終了します。
- 上記にかかわらず、当該不一致がお客様又は第三者によるオムロン **UPS** 若しくは許諾ソフトウェア又はコンピュータの不適切な使用又は取扱いにより生じた場合、取扱説明書の指示に従わなかったことにより生じた場合又は使用されることが意図されていない設備機器とともに使用された場合については、上記の許諾ソフトウェアの交換又は修正の対象外となります。
- さらに、この項の最初の段落にかかわらず、ユーザがオムロン **UPS** に同梱の記録媒体又はオムロンのウェブページからのダウンロードにより許諾ソフトウェアを無償で入手した場合、許諾ソフトウェアは、現状有姿で提供され、この項は適用されません。
6. 前項は、オムロンの許諾ソフトウェアの作動及び不動作に関する責任のすべてを定めるものであり、オムロンは許諾ソフトウェアの作動及び不動作により発生した、お客様の直接的、間接的、あるいは波及効果による損害、特別な事情による損害、逸失利益についての損害に対しては一切の責任を負いません。
7. オムロンは、お客様が許諾ソフトウェアを他社のソフトウェアと連携させて使用した場合の許諾ソフトウェアの目的適合性、動作性、第三者の知的財産権の非侵害及び合法性については、一切の保証をいたしかねます。お客様ご自身にてご確認いただき、許諾ソフトウェアのご利用の可否をご判断ください。
8. 許諾ソフトウェアの改変並びに逆コンパイル、逆アセンブリ及びリバースエンジニアリングその他のそれに類する行為により、特許権（実用新案権に基づく権利も含む。以下同じ）、著作権又は営業秘密を侵害するものとしてオムロンに使用を許諾している第三者又は当該第三者以外からお客様が請求された場合にはオムロンは責任を負いません。
9. オムロンがお客様の損害について責任を負ういかなる場合においても、オムロンの責任はお客様が許諾ソフトウェアにより監視及び管理している無停電電源装置（**UPS**）の購入代金として支払った金額又は許諾ソフトウェアのライセンスの購入代金として支払った金額のいずれか低い方の金額を超えることはありません。

10. お客様が本契約に違反した場合、オムロンはお客様に通知することにより許諾ソフトウェアの使用許諾を終了させることができます。
その場合、お客様は許諾ソフトウェア及びそのすべての複製物をオムロンに返却し又は削除しなければなりません。
11. 本契約は、日本国法に基づき解釈されるものとします。
12. お客様が日本に居住する個人又は日本法に基づき設立された法人の場合には、本契約に関する一切の紛争については、東京地方裁判所をもって第一審の専属的合意管轄裁判所とします。
その他の場合には、本契約に関する一切の紛争については、一般社団法人日本商事仲裁協会の商事仲裁規則にしたがって、東京において仲裁により最終的に解決されるものとします。
仲裁人の裁定は、最終的かつ本契約の当事者を拘束するものとします。
13. 本契約は、日本語版で作成されるものとし、英語版は参考訳とします。日本語版の内容と英語版の参考訳の内容に相違がある場合は、日本語版の内容が優先します。

取扱説明書の読み方

本取扱説明書に記載してあること

本ソフトウェアの機能概要、操作方法、設定方法、無停電電源装置（UPS）との接続方法などについて記載してあります。

UPS 本体の説明については、各 UPS の取扱説明書をご参照ください。

ページ構成と記号について

本取扱説明書の各ページの構成と記号は次のとおりです。

マークについて



お願い

本ソフトウェアの動作不能、誤動作、または性能・機能への悪影響を予防するために、予め実施または回避すべきことを示します。



参考

必要に応じて読んでいただきたい項目です。

知っておくと便利な情報や、使用する上で参考となる内容について説明しています。



詳しい情報や、関連情報の記載されている場所を示します。

表記について

本取扱説明書では、ソフトウェア画面上の項目やボタンについて、以下のように記述しています。

[]画面に表示される項目で、画面名や設定値を表します。

(例) 「シャットダウンパラメータ」 タブ

[] ボタン画面に表示される項目で、操作対象のもの（クリックできるボタン類）を表します。

(例) [次へ] ボタン

本ソフトウェア 「Power Attendant Standard Edition」を指します。

用語説明

本取扱説明書では、特に説明する場合を除き、以下の用語を使用します。

用語	解説
UPS	無停電電源装置 (Uninterruptible Power Supply) のことです。商用電源の異常発生時に、接続している機器へ安定して電力を供給する装置です。
接続機器	UPS に接続し、停電時などに UPS のバッテリーから電力供給を受ける機器のことです。
商用電源	電力会社から送電される電力のことです。
AC 入力	商用電源から UPS に供給される電力のことです。
電源出力	UPS から接続機器に供給される電力のことです。
スタンバイモード	商用電源から UPS に電力は供給されているが、UPS の電源は入っていない状態です。
商用運転、商用モード	商用電源から UPS に電力が供給され、UPS から接続機器に電力が供給されている運転状態です。
バックアップ運転、 バッテリーモード	AC 入力が異常が発生し、UPS のバッテリーから接続機器への電力供給が行われている運転状態です。
コールドスタート	AC 入力がない場合もバッテリー電力で UPS を起動し、接続機器への電力供給を行うモードです。
自己診断テスト	UPS の故障やバッテリー劣化を検出するためのテストです。
製品番号	本ソフトウェアとともに使用する UPS の製造番号、シリアル No.、S/N、SN のことです。
連携シャットダウン	入力電源異常（停電など）が発生したとき、同一ネットワーク上にある複数のコンピュータを連携して自動シャットダウンする機能です。 1 台のプライマリと、1 台以上のセカンダリで構成します。
プライマリ	連携シャットダウンの構成において、UPS と直接接続しており、入力電源異常（停電など）が発生したことを認識して自動シャットダウンを実行する役割のことです。 プライマリは、本ソフトウェアをインストールしたコンピュータまたは UPS に接続したネットワークカードのどちらかになります。
セカンダリ	プライマリとネットワーク連携して自動シャットダウンを実行する役割のことです。 セカンダリは、本ソフトウェアをインストールしたコンピュータになります。

動作環境

本ソフトウェアの動作環境は以下の通りです。

■ 対応 OS

対応状況は、当社ホームページをご覧ください。

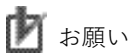
https://socialsolution.omron.com/jp/ja/products_service/ups/product/soft/shutdownsoft_sentaku.html

■ 対応ブラウザ

Microsoft Edge
Google Chrome
Firefox

■ 対応 UPS

全機種（生産終了機種を除く）



UPS にネットワークカードが装着されている場合は、本ソフトウェアをプライマリモードとして使用することはできません。ネットワークカード装着時はセカンダリモードでご使用ください。

■ 接続インターフェース

UPS との接続 ： USB / RS-232C

ネットワークカードとの接続 ： LAN


1. 機能概要

PowerAttendant Standard Edition（以下、本ソフトウェア）は、自動シャットダウン機能が実行できます。自動シャットダウン機能は、コンピュータに接続した無停電電源装置（以下、UPS）の状態を常時監視して、入力電源異常（停電など）が発生した際に、コンピュータを正常にシャットダウンして、OS やハードディスクの損傷を防止する機能です。

1-1 主な機能

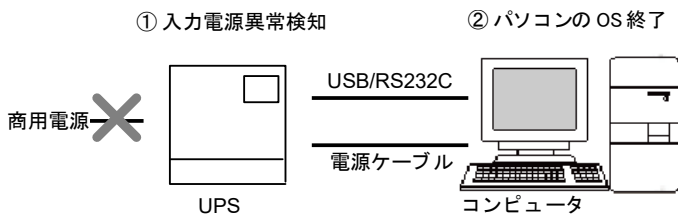
本ソフトウェアの主な機能について説明します。

入力電源異常時に UPS に接続したコンピュータを自動シャットダウンさせる


( 「5-2 シャットダウンパラメータ」 32 ページ)

入力電源異常（停電など）が発生したとき、UPS に接続されているコンピュータのデータやソフトウェアの安全を守るため、UPS からの電源出力が停止する前に、コンピュータを自動的にシャットダウンさせます。

USB や RS-232C ケーブルで、UPS に直接接続したコンピュータの OS を正常に終了させます。UPS とコンピュータを 1 対 1 で接続する構成です。



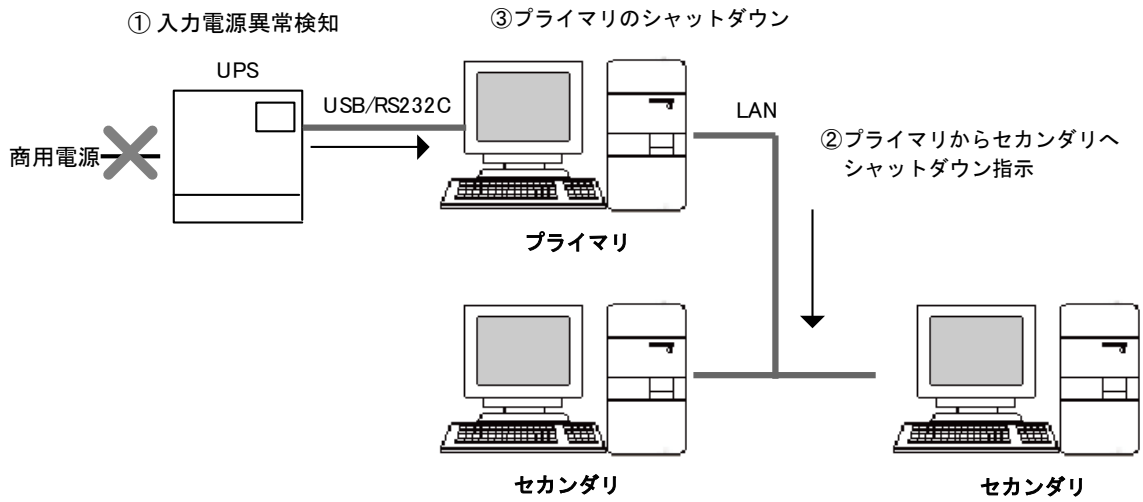
入力電源異常時に複数のコンピュータを自動シャットダウンさせる

( 「5-4 連携シャットダウン」 46 ページ)

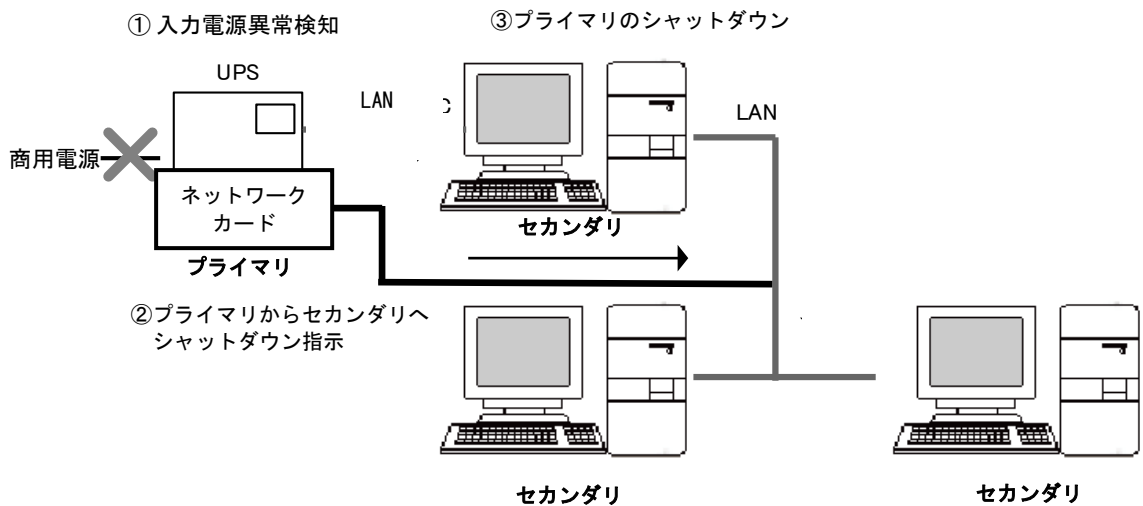
入力電源異常（停電など）が発生したとき、UPS に接続されているコンピュータとともに、ネットワークで接続されている複数のコンピュータを自動的にシャットダウンする機能です。自動シャットダウンしたいすべてのコンピュータに、本ソフトウェアをインストールします。

UPS と直接接続したプライマリとなるコンピュータと、自動シャットダウンしたいセカンダリとなるコンピュータのすべてに本ソフトウェアをインストールしてネットワーク接続する構成と、UPS に装着したネットワークカードをプライマリとした構成の、どちらかを選択します。

プライマリが本ソフトウェアをインストールしたコンピュータの場合



プライマリがUPSに装着したネットワークカードの場合

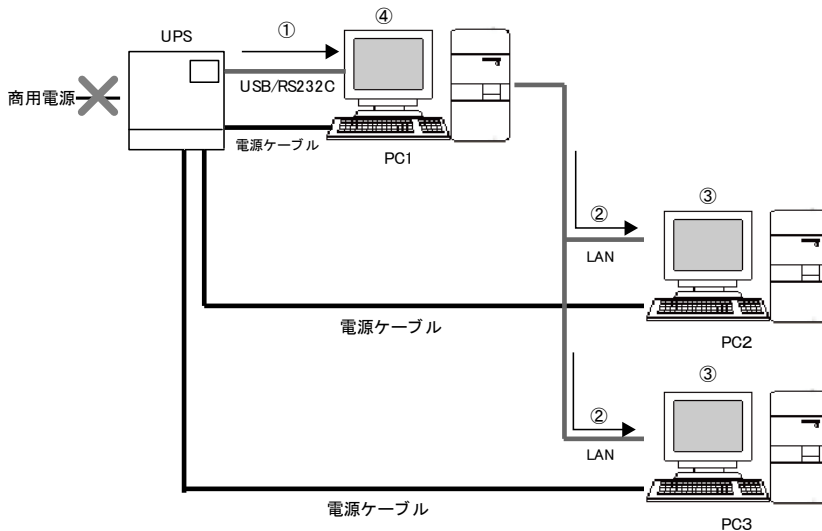


自動シャットダウン実行時にスクリプトを実行する

(「5-5 スマートタスク」 50 ページ)

自動シャットダウン実行時に、本ソフトウェアから他のコンピュータなどの機器にネットワーク経由で自動接続してスクリプトを実行することができます。

Windows 以外の OS を使用しているコンピュータなど、本ソフトウェアをインストールできない機器を自動シャットダウンしたい場合などに使用します。



<シャットダウン動作の流れ>

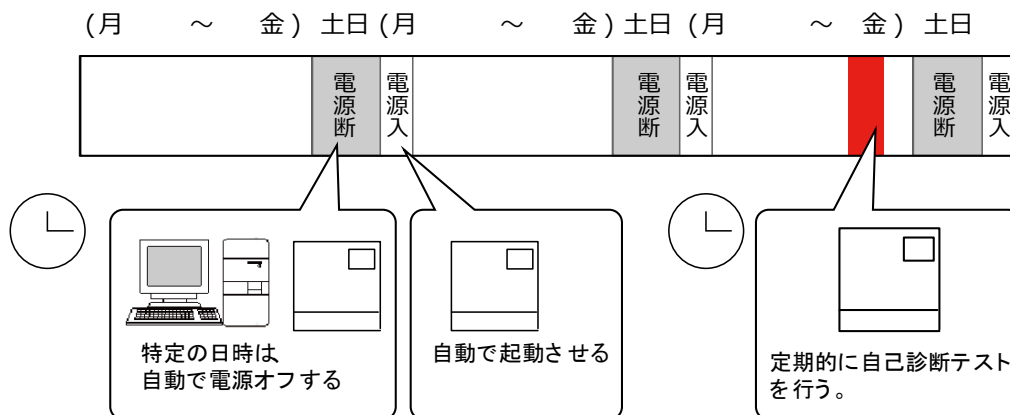
- ①本ソフトウェアがインストールされているコンピュータ (PC1) が、入力電源異常を検知。
- ②コンピュータ (PC1) が、同一ネットワーク上にあるコンピュータ (PC2、PC3) に対し、シャットダウンコマンドのスクリプトを発信します。
- ③コンピュータ (PC2、PC3) でシャットダウンコマンドが実行されてシャットダウンします。
- ④コンピュータ (PC1) がシャットダウンします。

設定したスケジュールで UPS とコンピュータを自動シャットダウンさせる

(「5-6 スケジュール」 57 ページ)

あらかじめ設定されたスケジュールに従って、コンピュータを自動シャットダウンできます。

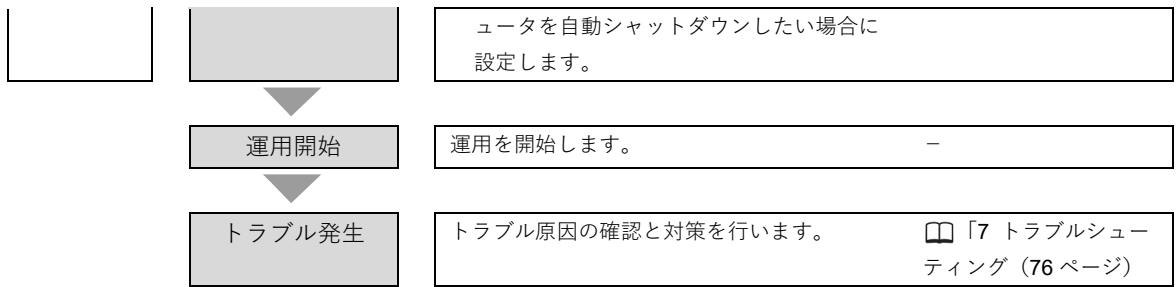
また、定期的に UPS の自己診断テストを実行させることも可能です。



1-2 自動シャットダウン機能の設定手順

以下の手順で自動シャットダウン機能を設定します。操作方法は該当するページを参照してください。

基本	UPS の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・UPS を設置します。 	—
	インストール	<ul style="list-style-type: none"> ・UPS にシャットダウンさせる機器を接続します。 	☐ 「2 コンピュータとの接続」 (16 ページ)
	本ソフトウェアの起動	<ul style="list-style-type: none"> ・本ソフトウェアを起動します。 	☐ 「3-2 本ソフトウェアを起動する」 (24 ページ)
		<ul style="list-style-type: none"> ・初回起動時の設定を行います。 	☐ 「3-3 初回起動時の設定」 (24 ページ)
	基本設定	<ul style="list-style-type: none"> ・トップ画面が表示されますので、UPS と接続していることを確認します。 	☐ 「5-1 トップ」 (31 ページ)
		<ul style="list-style-type: none"> ・自動シャットダウン機能の基本設定を行います。 	☐ 「5-2 シャットダウンパラメータ」 (32 ページ)
動作の確認	<ul style="list-style-type: none"> 自動シャットダウン機能が正常に動作するか、動作テストを行います。s 	☐ 「5-2 シャットダウンパラメータ」 (32 ページ)	
	<ul style="list-style-type: none"> 動作テストの結果がログに記録されているか確認します。 	☐ 「5-3 ログ」 (39 ページ)	
応用	応用機能の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細設定メニューを表示させます。 	☐ 「4-1 画面構成」 (25 ページ)
		<ul style="list-style-type: none"> ・連携シャットダウン 複数のコンピュータを自動シャットダウンしたい場合に設定します。 UPS と接続したコンピュータのみ自動シャットダウンさせる場合は、本設定は不要です。 	☐ 「5-4 連携シャットダウン」 (46 ページ)
		<ul style="list-style-type: none"> ・スマートタスク 自動シャットダウン時に本ソフトウェアから他のコンピュータなどの機器にネットワーク経由で自動接続してコマンドを実行したい場合に設定します。 UPS と接続したコンピュータのみ自動シャットダウンさせる場合は、本設定は不要です。 	☐ 「5-5 スマートタスク」 (50 ページ)
		<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール あらかじめ設定したスケジュールに従って、UPS と UPS に接続されているコンピ 	☐ 「5-6 スケジュール」 (57 ページ)



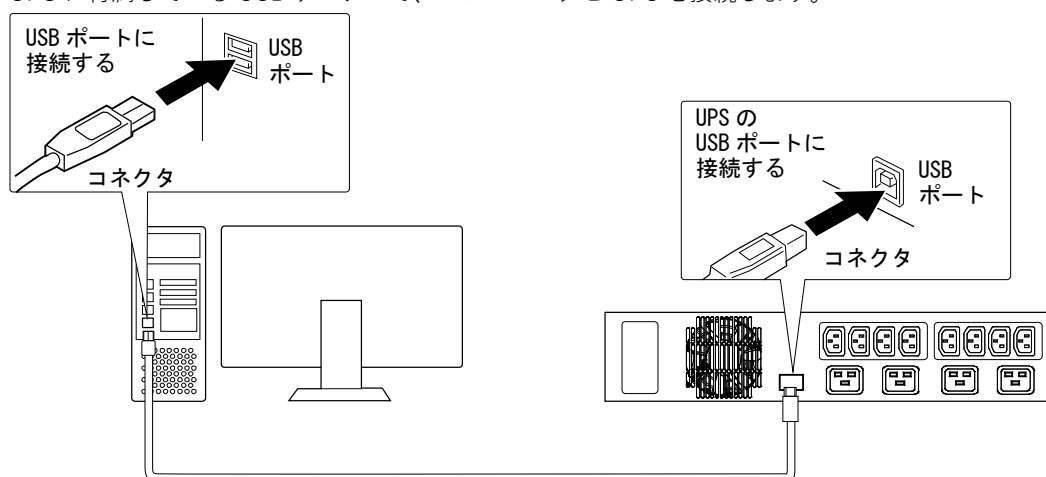
2. コンピュータとの接続

コンピュータと UPS を USB ケーブルまたは RS232C ケーブルで接続します。

2-1 USB 接続

コンピュータと UPS を USB ケーブルで接続します。

1. コンピュータの電源を OFF にします。
2. UPS に付属している USB ケーブルで、コンピュータと UPS を接続します。




3. UPS→コンピュータの順番に電源を ON にします。

参考

USB ケーブルは、コンピュータが起動してから接続しても問題ありません。

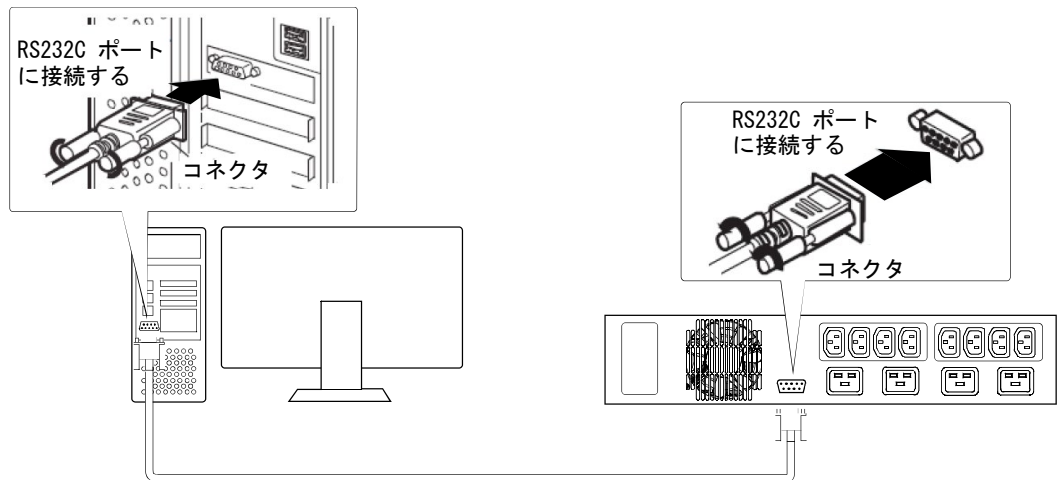
2-2 RS-232C 接続

コンピュータと UPS を、RS-232C ケーブルで接続します。


 お願い

RS-232C ケーブルは、UPS 付属のケーブルを使用してください。

1. コンピュータの電源を OFF にします。
2. UPS に付属している RS-232C ケーブルで、コンピュータと UPS を接続します。



3. RS-232C ケーブルの固定用ねじを締めてコネクタを固定します。
4. UPS→コンピュータの順番に電源を ON にします。

 お願い

コンピュータと UPS を RS-232C 接続する場合は、本ソフトウェアの「COM ポート設定」を最初に行ってください。

「COM ポート設定」では、UPS との接続に使用する COM ポートを設定してください。

3. インストール

3-1 インストールの手順

本ソフトウェアのインストールについて説明します。

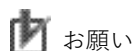
3-1-1 インストールの前に

- ・本ソフトウェアは、オムロン ソーシャルソリューションズ製 **UPS** 以外では使用できません。
- ・他の自動シャットダウンソフトウェアを使用している場合は、必ずそのソフトウェアをアンインストールし、**OS** を再起動してから、本ソフトウェアをインストールしてください。
各ソフトウェアのアンインストール方法は、それぞれの取扱説明書を参照してください。
- ・ご使用環境・本ソフトウェアは、オムロン ソーシャルソリューションズ製 **UPS** 以外では使用できません。
- ・本ソフトウェアをインストールする前に、**UPS** と接続してください。
- ・**Administrator** 権限があるユーザ名でコンピュータにログインしてください。
- ・起動している他のアプリケーションを終了してください。

3-1-2 .NET 6.0 のインストール

本ソフトウェアでは、Microsoft 社が提供している「.NET 6.0」を使用します。
本ソフトウェアをインストールする前に、以下の2つのソフトウェアを必ずインストールしてください。

- ・ ASP.NET Core ランタイム
- ・ .NET Runtime



- ・ 本ソフトウェアが動作できるのは、「.NET 6.0」を使用した場合のみです。「.NET 6.0」以外では正常に動作できませんので、必ず「.NET 6.0」をご使用ください。
- ・ バージョン名の上位2ケタが「6.0」であれば、下位2ケタは問いません。
- ・ Windows用の「x64」をクリックしてダウンロードしてください。

以下の URL より入手してください。

<https://dotnet.microsoft.com/ja-jp/download/dotnet/6.0>

Microsoft | .NET | .NET が選ばれる理由 | 機能 | 学習する | ドキュメント | ダウンロード | コミュニティ | ライブ フィード | すべての Microsoft 製品 | 検索

ホーム / ダウンロード / .NET / 6.0

NET 9 プレビュー 最新のプレビューを試してみませんか? .NET 9.0.0-preview.1 が利用できます。 | .NET 9 プレビューを取得する

.NET 6.0 のダウンロード

何をダウンロードするかわかりませんか? .NET の最新バージョン向け推奨ダウンロードを見る。

6.0.27 セキュリティ修正プログラム

リリースノート | 最新リリース日 2024年2月13日

アプリのビルド - SDK

SDK 6.0.419

OS	インストーラー	バイナリ
Linux	パッケージマネージャーの手順	Arm32 Arm32 Alpine Arm64 Arm64 Alpine x64 x64 Alpine
macOS	Arm64 x64	Arm64 x64
Windows	Arm64 x64 x86 wingetの手順	Arm64 x64 x86
すべて	dotnet-install scripts	

付加済みランタイム
.NET Runtime 6.0.27
ASP.NET Core ランタイム 6.0.27
.NET デスクトップランタイム 6.0.27

言語サポート
C# 10.0
F# 6.0
Visual Basic 16.9

SDK 6.0.127

OS	インストーラー	バイナリ
Linux	パッケージマネージャーの手順	Arm32 Arm32 Alpine Arm64 Arm64 Alpine x64 x64 Alpine
macOS	Arm64 x64	Arm64 x64
Windows	Arm64 x64 x86 wingetの手順	Arm64 x64 x86
すべて	dotnet-install scripts	

付加済みランタイム
.NET Runtime 6.0.27
ASP.NET Core ランタイム 6.0.27
.NET デスクトップランタイム 6.0.27

言語サポート
C# 10.0
F# 6.0
Visual Basic 16.9

アプリの実行 - ランタイム

ASP.NET Core ランタイム 6.0.27

ASP.NET Core ランタイムを使用すると、既存の Web/サーバー アプリケーションを実行できます。Windows では、.NET ランタイムと IIS サポートを含むホスティング パッケージをインストールすることをお勧めします。

IIS ランタイム サポート (ASP.NET Core モジュール v2)
16.0.24020.27

OS	インストーラー	バイナリ
Linux	パッケージマネージャーの手順	Arm32 Arm32 Alpine Arm64 Arm64 Alpine x64 x64 Alpine
macOS	Arm64 x64	Arm64 x64
Windows	Hosting_Runtime x64 x86 wingetの手順	Arm64 x64 x86

.NET デスクトップ ランタイム 6.0.27

.NET Desktop ランタイムを使用すると、既存の Windows デスクトップ アプリケーションを実行できます。このリリースには、.NET ランタイムが含まれています。個別にインストールする必要はありません。

OS	インストーラー	バイナリ
Windows	Arm64 x64 x86 wingetの手順	

.NET Runtime 6.0.27

.NET Runtime には、コンソール アプリの実行に必要なコンポーネントのみが含まれています。通常、ASP.NET Core Runtime または .NET Desktop Runtime のいずれかがインストールされます。

OS	インストーラー	バイナリ
Linux	パッケージマネージャーの手順	Arm32 Arm32 Alpine Arm64 Arm64 Alpine x64 x64 Alpine
macOS	Arm64 x64	Arm64 x64
Windows	Arm64 x64 x86 wingetの手順	Arm64 x64 x86
すべて	dotnet-install scripts	

「ASP.NET Core ランタイム」と「.NET Runtime」の Windows 用の「x64」をクリックするとダウンロードできます。

ダウンロードした exe ファイルをダブルクリックしてインストールしてください。


3-1-3 本ソフトウェアのインストール

お願い

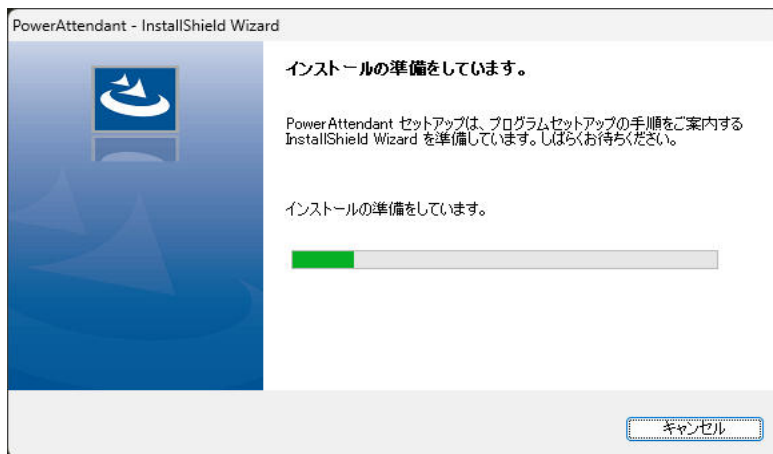
本ソフトウェアでは、Microsoft 社が提供している「.NET 6.0」を使用します。

本ソフトウェアをインストールする前に必ずインストールしてください。

インストール方法については、以下をご参照ください。

 「3-1-2 .NET 6.0 のインストール」(19 ページ)

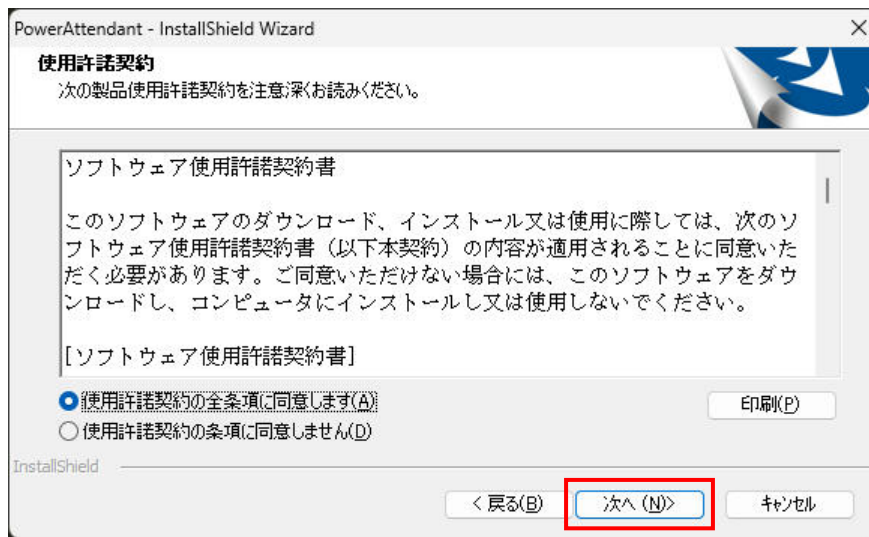
1. 当社ホームページよりダウンロードした本ソフトウェアを、任意のフォルダに解凍します。
2. 解凍したフォルダ内にある「setup.exe」をダブルクリックします。
インストールが開始されます。
3. 下記画面が表示されますので、しばらく待ちます。



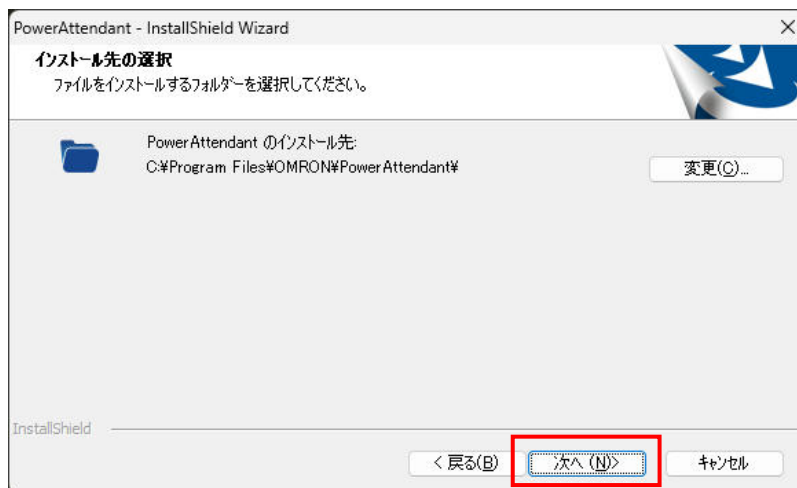
4. [次へ] ボタンをクリックします



5. 使用許諾契約画面が表示されたら、「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



6. [次へ] ボタンをクリックします。
インストールフォルダを変更する場合は、[変更] ボタンをクリックしてフォルダを選択します。



7. 本ソフトウェアで使用するポート番号を入力して、[次へ] ボタンをクリックします。



本ソフトウェアの画面をブラウザで表示させるために、使用するポート番号を設定する必要があります。

初期値として表示されているポート番号 80 番が、すでに他のソフトウェアで使用されている場合は、入力したポート番号はすでに使用されています。

別のポート番号を入力してください。

というメッセージが表示されますので、1 から 65535 の範囲内で別のポート番号を設定してください。重複していないポート番号で設定できた場合は、次のインストール画面に進むことができます。

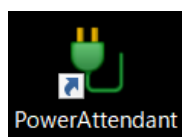
8. [インストール] ボタンをクリックします。



9. インストールが終了したら [完了] ボタンをクリックします。

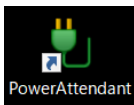


10. 以上で、本ソフトウェアのインストールは終了です。
本ソフトウェアがインストールされると、デスクトップに [PowerAttendant] のショートカットが作成されます。



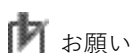
3-2 本ソフトウェアを起動する

デスクトップ上のアイコンをダブルクリックして、本ソフトウェアの画面を起動します。



3-3 初回起動時の設定

初回起動時には、本ソフトウェアで使用するログイン ID とパスワードを設定する必要があります。初回起動時のみ、以下の画面が表示されますので、ログイン ID とパスワードを設定してください。



お願い

- ・この画面は、ログイン ID とパスワードを設定するものです。
本ソフトウェアへのログインは、本ソフトウェアのトップ画面が表示されてから、ここで設定したログイン ID とパスワードを使ってログインします。
- ・ログイン ID とパスワードは、あとから変更することも可能ですが、変更するためにはログインする必要があります。このため、初回起動時に設定したログイン ID とパスワードの情報は、忘れないように管理してください。

① ログイン ID

1 文字以上 128 文字以下で設定してください。初期値は **Admin** です。

② パスワード

8 文字以上 32 文字以下で設定してください。初期値はありません。
英大文字、英小文字、数字、記号を必ず 1 文字以上使用してください。
(記号については、「”」と「,」は使用できません)

③ パスワード (再入力)

同じパスワードを再度入力してください。

④ モード選択

初回起動時のモードを選択します。各モードの詳細については、以下を参照してください。

☐ 「5-4 連携シャットダウン」(46 ページ)

[保存] ボタンをクリックしてしばらくすると、本ソフトウェアのトップ画面が表示されます。

4. 画面と操作

4-1 画面構成

本ソフトウェアの画面は、以下のような画面構成となっています。
起動時には、以下のようなトップ画面が表示されます。



① 固定表示エリア

UPSの状態などに関する情報を表示します。

このエリアは、メニューを選択してメイン表示エリアを切り替えても常に表示されます。

② メニューエリア

設定・操作するためのメニューを表示します。

③ 表示・操作エリア

メニューで選択した項目についての情報が表示されます。






4-2 タスクトレイアイコン

Windows のタスクトレイアイコンで、以下の状態について表示します。



タスクアイコン表示



プライマリとして使用している場合

アイコン表示	表示内容	説明
	商用運転中正常	UPS は正常運転しています。
	サービス停止	本ソフトウェアの動作が停止しています。
	バックアップ運転中	UPS は入力電源異常でバックアップ運転（バッテリー出力）しています。
	通信エラー	UPS と本ソフトウェアの間で通信エラーが発生しています。
	ハードウェア異常	UPS、バッテリーに問題が発生しています。 どのような問題が発生しているか、イベントログで確認してください。 検出できる異常は UPS の機種ごとに異なります。詳細は UPS の取扱説明書を参照してください。

セカンダリとして使用している場合

アイコン表示	表示内容	説明
	通信正常	プライマリで動作している本ソフトウェアとの間で正常に通信できています。
	通信エラー	プライマリで動作している本ソフトウェアとの間で通信エラーが発生しています。

4-3 メニュー一覧

本ソフトウェアのメニュー一覧です。

The screenshot shows the main interface of the PowerAttendant Standard Edition software. At the top, the OMRON logo and 'PowerAttendant Standard Edition' are displayed. Below this, the model number '型式:BW55T', the operating status '運転状態: 通常運転中', and the battery status 'バッテリー状態:正常' are shown. A status bar indicates 'ON' with a power icon. The left sidebar contains a menu with 15 items, each numbered in a red circle. The main area displays a 'トップ' (Top) screen with five horizontal bar charts showing: 入力電圧 (104.6V), 入力周波数 (60.0Hz), 出力電圧 (104.5V), 出力周波数 (59.9Hz), and バッテリー容量 (100%).

図内番号	項目名	内容
①	トップ	UPS の状態などを表示します。 ☐ 「5-1 トップ」(31 ページ)
②	シャットダウンパラメータ	入力電源異常発生時の自動シャットダウンに関する設定を行います。 ☐ 「5-2 シャットダウンパラメータ」(32 ページ)
③	ログ	ログ情報を表示します。 ☐ 「5-3 ログ」(39 ページ)
④	連携シャットダウン	ネットワークで接続されている複数のコンピュータを自動シャットダウンするための設定を行います。 ☐ 「5-4 連携シャットダウン」(46 ページ)
⑤	スマートタスク	本ソフトウェアから他のコンピュータなどの機器にネットワーク経由で自動接続してスクリプトを実行するための設定を行います。 ☐ 「5-5 スマートタスク」(50 ページ)
⑥	スケジュール	あらかじめ設定されたスケジュールに従って、コンピュータを自動シャットダウンするための設定を行います。 ☐ 「5-6 スケジュール」(57 ページ)
⑦	COM ポート設定	UPS とコンピュータを RS232C で接続する場合の設定を行います。 ☐ 「5-7 COM 設定」(62 ページ)
⑧	設定ファイル	本ソフトウェアの設定情報のファイルへの保存と読み込みを行います。 ☐ 「5-8 設定ファイル」(63 ページ)
⑨	UPS 設定	UPS 本体に設定する項目の設定を行います。 ☐ 「5-9 UPS 設定」(64 ページ)

図内 番号	項目名	内容
⑩	UPS 制御	UPS を制御するための操作を行います。 ☞ 「5-10 UPS 制御」 (67 ページ)
⑪	ユーザ管理	ユーザ ID とパスワードの変更を行います。 ☞ 「5-11 ユーザ管理」 (69 ページ)
⑫	その他	UPS に直接コマンドを送信するための操作を行います。 ☞ 「5-12 その他」 (71 ページ)
⑬	バージョン情報	本ソフトウェアや接続している UPS に関する情報を表示します。 ☞ 「5-13 ヘルプ」 (72 ページ)
⑭	マニュアルページ	本ソフトウェアのマニュアルへのリンクです。
⑮	UPS 製品ホームペ ージ	当社 UPS 製品のホームページへのリンクです。

4-4 ログインとログアウト

本ソフトウェアで設定を行う場合は、初回起動時に設定したログイン ID とパスワードで本ソフトウェアにログインする必要があります。

4-4-1 ログイン

①画面右上の「ログイン」ボタンをクリックします。



②以下の画面が表示されますので、設定しているログイン ID とパスワードを入力して「ログイン」ボタンをクリックします。

③ログインすると、画面右上にログイン ID と「ログアウト」ボタンが表示されます。

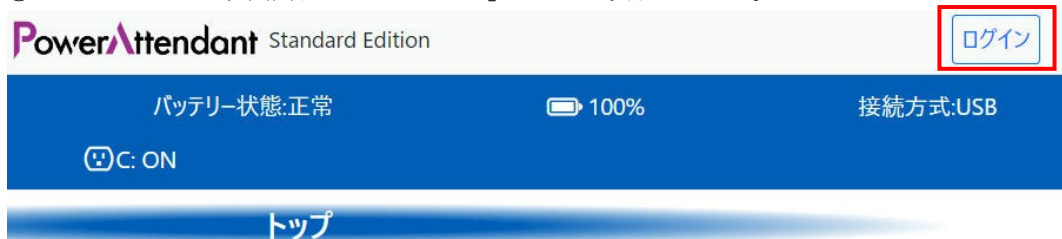


4-4-2 ログアウト

①画面右上の「ログアウト」ボタンをクリックするとログアウトします。



②ログアウトすると、画面右上に「ログイン」ボタンが表示されます。



参考

初回起動時に設定したログイン ID とパスワードは変更することができます。

変更方法についての詳細は、以下を参照ください。

 「5-11 ユーザ管理」(69 ページ)

5. 画面説明

本ソフトウェアの各メニューをクリックして表示される画面について説明します。

5-1 トップ

本ソフトウェア起動時に最初に表示される画面です。接続されている UPS の状態を確認できます。



図内番号	項目名	説明
①	入力電圧 入力周波数	接続している UPS の入力電圧と入力周波数をグラフと数値で表示します。
②	出力電圧 出力周波数	接続している UPS の出力電圧と出力周波数をグラフと数値で表示します。
③	接続容量 バッテリー容量	接続している UPS の接続容量とバッテリー容量をグラフと数値で表示します。
④	UPS 使用開始日 バッテリー交換日	接続している UPS 使用開始日とバッテリー交換日を表示します。 UPS 本体に設定できる機種の場合は、UPS に設定してある日付を表示します。 UPS に設定できない機種の場合は、本ソフトウェア内に保存している日付を表示します。 本ソフトウェアの「UPS 設定」-「基本設定」で日付を変更できます。 接続している UPS が BV100REX の場合のみ「増設バッテリー交換日」が表示されません。

5-2 シャットダウンパラメータ

入力電源異常（停電など）が発生したときの、シャットダウン動作について設定します。

5-2-1 基本設定

OS をシャットダウンする場合

入力電源異常（停電など）が発生したとき、自動シャットダウンを実行したい場合には、「基本」-「OS をシャットダウンする」を選択します。
接続している UPS の機種によって、表示される画面が異なります。

出力コンセント制御機能を持っていない UPS の場合

例：BW55T

The screenshot shows the 'Shutdown Parameters' configuration window in PowerAttendant Standard Edition. The interface includes a top status bar with 'Admin' and 'ログアウト' buttons, and a main content area with a sidebar on the left. The main area features a timeline diagram and a list of configuration items. A red box highlights the 'OS Shutdown Mode' dropdown menu, which is set to 'Shutdown'. Other highlighted fields include 'Standby Time' (60 seconds), 'OS Shutdown Required Time' (1 minute), and 'Output Stop Time' (2 minutes). A 'Save' button and an 'Immediate Shutdown' button are also visible. A legend at the bottom indicates that the selected mode is 'OS Shutdown'.

図内番号	項目名	説明
①	OS シャットダウンのモード	入力電源異常（停電など）が発生した場合の OS の終了状態を設定します。「シャットダウン」と「休止」から選択します。 ※「休止する」はデスクトップの状態をハードディスクに保存して終了します。再起動時には休止前のデスクトップ状態に戻ります。以下の場合、「休止する」をお勧めします。 →OS 終了時に保存したいデータがある。 →最短の時間で OS を終了させたい。
②	待機時間	本ソフトウェアが入力電源異常を検出後、シャットダウンを開始するまでの時間を設定します。

図内 番号	項目名	説明
		<p>※本時間は入力電源異常が回復するか、様子を見る時間です。</p> <p>※本時間内に復電した場合は、シャットダウンを開始しません。</p>
③	OS シャットダウンに必要な時間	<p>OS のシャットダウン開始から確実に完了するまでに必要な時間を設定します。</p> <p>本ソフトウェアを使用するコンピュータのシャットダウンにかかる時間を実際に測定して、その時間を設定することをお勧めします。</p>
④	出力停止までの時間	<p>シャットダウン開始後、UPS からの出力を停止するまでの時間を設定します。グラフで表示している「OS の処理」の合計時間より、「コンセント」の合計時間の方が長くなるように設定してください。</p> <p>「メモ」欄には任意の文字列を入力できます。</p> <p>出力コンセントに接続している機器の名称などを入力しておくとう便利です。</p>
⑤	即時シャットダウン	<p>本ソフトウェアによる OS と UPS のシャットダウンを実行します。</p> <p>以下の警告画面で [はい] ボタンをクリックすると、設定した待機時間 (秒) 後にシャットダウンを開始します。設定通りに動作することを確認する場合などにご使用ください。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: right;">即時シャットダウン ×</p> <hr/> <p>即時シャットダウンを開始します。よろしいですか</p> <p>待機時間 <input type="text" value="60"/> 秒</p> <p style="text-align: right;"> <input type="button" value="はい"/> <input type="button" value="キャンセル"/> </p> </div> <p>※「即時シャットダウン」で UPS を停止した場合、UPS は自動起動しません。UPS を再起動するには、UPS 本体の電源スイッチを ON してください。</p>
⑥	出力開始設定	<p>クリックすると、「UPS 設定」-「出力開始設定」の画面を表示します。</p> <p>復電時の UPS の出力開始遅延時間を設定してください。</p> <p>※メニューから「UPS 設定」-「出力開始設定」を選択しても同じ画面が表示されます。シャットダウンパラメータの画面に戻る場合は、メニューから「シャットダウンパラメータ」を選択してください。</p>

設定が終わったら [保存] ボタンをクリックして設定を保存してください。

出力コンセント制御機能を持った UPS の場合
 例：BV55RE（出力コンセント A/B/C の制御が可能）

シャットダウンパラメータ

基本 OSをシャットダウンする

オプション

シャットダウン開始

待機時間 ② タスク時間 ③ OSシャットダウンに必要な時間 ③ 出力継続

① OSシャットダウンのモード シャットダウン

② 待機時間 ② 60 秒

③ OSシャットダウンに必要な時間 ③ 2 分

④ コンセントA ④ 出力停止までの時間 5 分 カウントダウン開始条件 待機時間経過 メモ 業務サーバ


④ コンセントB ④ 出力停止までの時間 4 分 カウントダウン開始条件 待機時間経過 メモ 部門ストレージ

④ コンセントC ④ 出力停止までの時間 2 分 カウントダウン開始条件 待機時間経過 メモ モーター

保存 ⑤ 即時シャットダウン ⑥ 出力開始設定

OSをシャットダウンしない

図内番号	項目名	説明
①	OS シャットダウンのモード	入力電源異常（停電など）が発生した場合の OS の終了状態を設定します。「シャットダウン」と「休止」から選択します。 ※「休止する」はデスクトップの状態をハードディスクに保存して終了します。再起動時には休止前のデスクトップ状態に戻ります。以下の場合、「休止する」をお勧めします。 ・OS 終了時に保存したいデータがある。 ・最短の時間で OS を終了させたい。
②	待機時間	本ソフトウェアが入力電源異常を検出後、シャットダウンを開始するまでの時間を設定します。 ※本時間は入力電源異常が回復するか、様子を見る時間です。 ※本時間内に復電した場合は、シャットダウンを開始しません。
③	OS シャットダウンに必要な時間	OS のシャットダウン開始から確実に完了するまでに必要な時間を設定します。 本ソフトウェアを使用するコンピュータのシャットダウンにかかる時間を実際に測定して、その時間を設定することをお勧めします。
④	コンセント A コンセント B コンセント C	出力コンセント A/B/C の出力停止に関して出力コンセントごとに設定します。 「出力停止までの時間」 ⇒ 「カウントダウン開始条件」を起点として、出力停止するまでの時間を設定します。 「カウントダウン開始条件」 ⇒ 「待機時間経過」と「スマートタスク終了」から選択します。

図内 番号	項目名	説明
		<p>「メモ」 ⇒ 任意の文字列を入力できます。 出力コンセントに接続している機器の名称などを入力しておくくと便利です。</p>
⑤	即時シャットダウン	<p>本ソフトウェアによる OS と UPS のシャットダウンを実行します。 以下の警告画面で [はい] ボタンをクリックすると、設定した待機時間（秒）後にシャットダウンを開始します。設定通りに動作することを確認する場合などにご使用ください。</p>  <p>※「即時シャットダウン」で UPS を停止した場合、UPS は自動起動しません。UPS を再起動するには、UPS 本体の電源スイッチを ON してください。</p>
⑥	出力開始設定	<p>クリックすると、「UPS 設定」-「出力開始設定」の画面を表示します。 復電時の UPS の出力開始遅延時間を設定してください。 ※メニューから「UPS 設定」-「出力開始設定」を選択しても同じ画面が表示されます。シャットダウンパラメータの画面に戻る場合は、メニューから「シャットダウンパラメータ」を選択してください。</p>

設定が終わったら [保存] ボタンをクリックして設定を保存してください。

OS をシャットダウンしない場合

入力電源異常（停電など）が発生したとき、自動シャットダウンは実行せずに UPS からの出力を維持したい場合には、「基本」 - 「OS をシャットダウンしない」を選択します。

以下の画面が表示されますので、シャットダウン動作を設定します。

シャットダウンパラメータ

基本 OSをシャットダウンする

オプション

OSをシャットダウンしない

① バッテリーがなくなるまでバックアップする

② 最大バックアップ時間を設定する ② 10 分

保存

図内 番号	項目名	説明
①	バッテリーがなくなるまでバックアップする	UPS はバッテリーがなくなるまで、そのまま出力を継続します。
②	最大バックアップ時間を設定する	UPS は設定した時間が経過したら出力を停止します。

設定が終わったら [保存] ボタンをクリックして設定を保存してください。

5-2-2 オプション設定

入力電源異常時に UPS のバッテリー残量が少ない場合や、UPS 本体に異常が発生した場合など、緊急にシャットダウンが必要になった場合のシャットダウン動作を設定します。

シャットダウンパラメータ

基本

オプション

① 緊急シャットダウン

バッテリロー

② UPS本体の異常発生時のシャットダウン

<input type="checkbox"/> UPS異常検出	<input type="checkbox"/> バッテリ切断	<input type="checkbox"/> 接続容量オーバー
<input type="checkbox"/> 過電圧	<input type="checkbox"/> 低電圧	<input type="checkbox"/> 出力短絡異常
<input type="checkbox"/> DCバス電圧異常	<input type="checkbox"/> トランス異常	<input type="checkbox"/> 温度異常
<input type="checkbox"/> ファン異常		

③ UPS本体バッテリーの異常発生時のシャットダウン

<input type="checkbox"/> バッテリ異常検出	<input type="checkbox"/> バッテリ劣化	<input type="checkbox"/> バッテリ誤接続
<input type="checkbox"/> バッテリ過充電異常	<input type="checkbox"/> バッテリ充電不足異常	
<input type="checkbox"/> BMS過電流	<input type="checkbox"/> BMS内部エラー	<input type="checkbox"/> 充電故障
<input type="checkbox"/> BMSセル過電圧	<input type="checkbox"/> BMSセル低電圧	

保存

図内 番号	項目名	説明
①	緊急シャットダウン	UPS のバッテリー残量が少ない（バッテリーロー状態）状態になると、直ちにシャットダウンを開始します。 シャットダウンは、シャットダウンパラメータの設定に従って動作しますが、待機時間とタスク時間は無視されます。ただし、すでにタスクを実行中にバッテリーローになった場合は、そのタスクは最後まで実行されます。 初期値は OFF です。
②	UPS 本体の異常発生時のシャットダウン	UPS 本体に異常が発生すると、シャットダウン動作を開始します。シャットダウン動作のトリガとなる異常の種類は、以下のイベントから選択できます。 ・UPS 異常検出 ・バッテリー切断 ・接続容量オーバー ・過電圧 ・低電圧 ・出力短絡異常 ・DC バス電圧異常 ・トランス異常 ・温度異常 ・ファン異常 上記設定項目はすべての UPS で共通に表示されます。 ただし、UPS の機種によってサポートしていない項目もあります。 その場合は、その項目は UPS として異常状態にはならないため、設定が ON になっていてもシャットダウン動作は行いません。 初期値はすべて OFF です。
③	UPS 本体バッテリーの異常発生時のシャットダウン	UPS 本体のバッテリーに異常が発生すると、シャットダウン動作を開始します。シャットダウン動作のトリガとなる異常の種類は、以下のイベントから選択できます。 ・バッテリー異常検出 ・バッテリー劣化 ・バッテリー誤接続 ・バッテリー過充電異常 ・バッテリー充電不足異常 ・BMS 過電流 ・BMS 内部エラー ・充電故障 ・BMS セル過電圧 ・BMS セル低電圧 上記設定項目はすべての UPS で共通に表示されます。 ただし、UPS の機種によってサポートしていない項目もあります。 その場合は、その項目は UPS として異常状態にはならないため、設定が ON になっていてもシャットダウン動作は行いません。 初期値はすべて OFF です。

設定が終わったら [保存] ボタンをクリックして設定を保存してください。

BV100REX を接続している場合は、「増設バッテリーの異常発生時のシャットダウン」の設定項目が表示されます。BV100REX に増設バッテリーユニット(EBM)を接続している場合に異常が発生すると、シャットダウン動作を開始します。シャットダウン動作のトリガとなる異常の種類は、以下のイベントから選択できます。

- ・ EBM バッテリー接続エラー
- ・ BMS 内部エラー
- ・ バッテリー寿命
- ・ EBM セル高温異常
- ・ EBM セル低温異常
- ・ EBM セル過電圧異常
- ・ EBM セル低電圧異常
- ・ EBM 過電流
- ・ EBM ヒートシンク高温異常

設定が終わったら [保存] ボタンをクリックして設定を保存してください。


5-3 ログ

UPS または本ソフトウェアで発生したイベントや、UPS の電源の状態を記録します。

ログには、「イベントログ」「操作履歴ログ」「タスク履歴ログ」「データログ」の4つのメニューがあります。

シャットダウン機能が動作しなかったなどのトラブルが発生したときは、本機能のログ記録を確認して、トラブル要因の特定にお役立てください



図内 番号	項目名	説明
①	イベントログ	本ソフトウェアと UPS で発生したイベントを記録します。
②	操作履歴ログ	ユーザが本ソフトウェアを操作した履歴を記録します。
③	タスク履歴ログ	スマートタスク機能で設定したタスクが実行された結果を記録します。
④	データログ	UPS の状態を記録します。
⑤	増設バッテリーログ	BV100REX が接続されている場合のみ増設バッテリーログの状態を記録します。
⑥		クリックすると、ログ設定の画面が開きます。

お願い

イベントログで表示される UPS 本体のハードウェア異常は、機種ごとに検出内容が異なります。
ハードウェア異常の詳細については、UPS 本体の取扱説明書を参照してください。

5-3-1 イベントログ

UPS と本ソフトウェアで発生したイベントを記録します。

ログ

イベントログ
操作履歴ログ
タスク履歴ログ
データログ
増設バッテリーログ
⚙️

① 日時	② レベル	③ 種別	④ 詳細
2023/07/12 16:12:30	🕒 情報	UPS	UPS接続されました: USB
2023/07/12 16:12:25	⚠️ 警告	UPS	UPS切断されました: USB
2023/07/12 15:32:30	🕒 情報	UPS	UPS接続されました: USB
2023/07/12 15:32:07	⚠️ 警告	UPS	UPS切断されました: USB
2023/07/12 15:10:34	🕒 情報	UPS	UPS接続されました: USB
2023/07/12 12:57:25	⚠️ 警告	UPS	UPS切断されました: USB
2023/07/12 11:49:32	🕒 情報	UPS	UPS接続されました: USB
2023/07/12 11:49:23	⚠️ 警告	UPS	UPS切断されました: USB
2023/07/12 11:49:07	🕒 情報	UPS	復電
2023/07/12 11:49:01	⚠️ 警告	UPS	入力電源異常
2023/07/12 11:48:37	🕒 情報	PowerAttendant	サービス開始

図内 番号	項目名	説明
①	日時	イベントが発生した日時。
②	レベル	イベントのレベル。 「警告」と「情報」の「エラー」3種類。
③	種別	「UPS」⇒ UPS に関するイベント。 「PowerAttendant」⇒ 本ソフトウェアに関するイベント。 「連携シャットダウン」⇒ 連携シャットダウンに関するイベント 「COM ポート設定」⇒ COM ポート設定に関するイベント 「スケジュール」⇒ スケジュールに関するイベント
④	詳細	発生したイベントの内容。

5-3-2 操作履歴ログ

ユーザが本ソフトウェアを操作した履歴を記録します。

ログ

[イベントログ](#)
[操作履歴ログ](#)
[タスク履歴ログ](#)
[データログ](#)
[増設バッテリーログ](#)


① ② ③ ④ 1

日時	種別	動作	項目
2023/07/11 17:55:27	UPS制御	変更	出力制御
2023/07/11 17:51:56	連携シャットダウン	変更	プライマリ設定
2023/07/11 17:51:53	連携シャットダウン	変更	セカンダリ設定：ネットワークカードと連携
2023/07/11 17:51:29	連携シャットダウン	変更	セカンダリ設定：ネットワークカードと連携
2023/07/11 17:51:20	連携シャットダウン	変更	セカンダリ設定：ネットワークカードと連携
2023/07/11 17:50:59	連携シャットダウン	変更	セカンダリ設定：プライマリと連携
2023/07/11 17:50:37	連携シャットダウン	変更	セカンダリ設定：プライマリと連携
2023/07/11 17:50:29	連携シャットダウン	変更	セカンダリ設定：プライマリと連携
2023/07/11 17:31:49	UPS制御	変更	出力制御
2023/07/11 8:19:16	連携シャットダウン	変更	プライマリ設定
2023/07/11 8:19:11	連携シャットダウン	変更	セカンダリ設定：ネットワークカードと連携
2023/07/11 8:19:06	連携シャットダウン	変更	セカンダリ設定：ネットワークカードと連携

図内番号	項目名	説明
①	日時	ユーザが操作した日時。
②	種別	ユーザが操作したメニューの種別。
③	動作	ユーザが操作した動作。 「登録」「変更」「削除」の3種類。
④	項目	ユーザが操作した項目。

項目をクリックすると、さらに詳細な情報が表示されます。

例えば、動作が「変更」の場合は、その項目の変更前と変更後の内容を表示します。

ログ

[イベントログ](#)
[操作履歴ログ](#)
[タスク履歴ログ](#)
[データログ](#)
[増設バッテリーログ](#)


1

日時	種別	動作	項目
2023/07/11 17:55:27	UPS制御	変更	出力制御
2023/07/11 17:51:56	連携シャットダウン	変更	プライマリ設定
			<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>連携モード</p> <p>変更前：ネットワークカードとの通信</p> <p>変更後：セカンダリとの通信</p> </div>

5-3-3 タスク履歴ログ

スマートタスク機能で設定したタスクが実行された結果を記録します。

ログ

[イベントログ](#) | [操作履歴ログ](#) | **[タスク履歴ログ](#)** | [データログ](#) | [増設バッテリーログ](#)

① ② ③ ④ ⑤

日時	タスク名	状態	フロー	通信データ
2023/07/12 16:27:36	test2	⊗	詳細	
2023/07/12 16:26:49	test	✓	タスクが完了しました	ダウンロード

図内 番号	項目名	説明
①	日時	タスクが実行された日時。
②	タスク名	タスクの名称。
③	状態	タスクの実行状態をアイコンで表示。 「成功」「失敗」「タイムアウト」の3種類。
④	フロー	タスクの実行内容を時系列に表示。
⑤	通信データ	タスクの処理が完了すると「ダウンロード」が表示される。 「ダウンロード」をクリックすると実際に実行した結果をファイルとしてダウンロード可能。

「フロー」に表示されている文字列をクリックすると、詳細を表示します。

ログ

[イベントログ](#) | [操作履歴ログ](#) | **[タスク履歴ログ](#)** | [データログ](#) | [増設バッテリーログ](#)

1

日時	タスク名	状態	フロー	通信データ
2023/07/12 16:27:36	test2	⊗	詳細 <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 2023/07/12 16:27:36 : タスク開始しました 2023/07/12 16:27:36 : 実行前待機時間カウントダウン開始しました </div>	
2023/07/12 16:26:49	test	✓	タスクが完了しました <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 2023/07/12 16:26:49 : タスク開始しました 2023/07/12 16:26:49 : 実行前待機時間カウントダウン開始しました 2023/07/12 16:27:09 : スクリプトを実行しました 2023/07/12 16:27:09 : スクリプトが終了しました 2023/07/12 16:27:09 : 実行後待ち時間カウントダウン開始しました 2023/07/12 16:27:29 : タスク終了しました </div>	ダウンロード

5-3-4 データログ

UPS の状態を記録します。

ログ

イベントログ
操作履歴ログ
タスク履歴ログ
データログ
増設バッテリーログ
⚙️

先頭
◀
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
▶
末尾

⑨ エクスポート
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧

① 日時	② 型式	③ 入力電圧 (V)	入力周波数 (Hz)	④ 出力電圧 (V)	出力周波数 (Hz)	⑤ バッテリー電圧 (V)	⑥ 接続容量 (%)	⑦ 内部温度 (°C)	⑧ バッテリー容量 (%)
2023/07/12 16:32:40	BW55T	104.9	59.9	105.1	59.9	13.6	0	31.7	100
2023/07/12 16:31:40	BW55T	107.0	60.0	106.5	59.9	13.6	0	31.7	100
2023/07/12 16:30:40	BW55T	105.4	60.0	105.4	59.9	13.6	0	31.7	100
2023/07/12 16:29:40	BW55T	105.5	60.0	105.4	59.9	13.6	0	31.7	100
2023/07/12 16:28:40	BW55T	105.3	60.0	105.5	59.9	13.6	0	31.7	100
2023/07/12 16:26:30	BW55T	105.3	60.0	105.1	60.0	13.6	0	31.6	100
2023/07/12 16:25:30	BW55T	105.0	59.9	104.9	59.9	13.6	0	31.7	100
2023/07/12 16:24:30	BW55T	105.0	60.0	104.8	59.9	13.6	0	31.7	100
2023/07/12 16:23:30	BW55T	104.9	59.9	104.9	59.9	13.6	0	31.7	100
2023/07/12 16:22:30	BW55T	104.9	59.9	104.9	59.9	13.6	0	31.7	100

図内番号	項目名	説明
①	日時	UPS の状態を取得した日時。
②	型式	UPS の型式
③	入力電圧 (V) 入力周波数 (Hz)	入力電圧と入力周波数
④	出力電圧 (V) 出力周波数 (Hz)	出力電圧と出力周波数
⑤	バッテリー電圧 (V)	バッテリーの電圧
⑥	接続容量 (%)	UPS に接続している負荷の容量
⑦	内部温度 (°C)	UPS の内部温度
⑧	バッテリー容量 (%)	バッテリーの容量
⑨	エクスポート	クリックすると CSV 形式のファイルとしてデータログを外部出力できます

5-3-5 増設バッテリーログ

増設バッテリーの状態を記録します。

ログ


イベントログ 操作履歴ログ タスク履歴ログ データログ **増設バッテリーログ** ⚙️

1 2 3

⑥

① 日時	② 増設バッテリーID	③ シリアルNo.	④ 最大バッテリー温度(°C)	⑤ ヒートシンク温度(°C)
2024/03/11 15:36:57	Extended Battery #3	A7W23110002000G	+24.0	+28.2
2024/03/11 15:36:57	Extended Battery #2	A7W23110001100G	+25.4	+29.0
2024/03/11 15:36:57	Extended Battery #1	A7W23110001400G	+26.6	+29.7
2024/03/11 15:35:57	Extended Battery #3	A7W23110002000G	+24.0	+28.2
2024/03/11 15:35:57	Extended Battery #2	A7W23110001100G	+25.4	+29.0
2024/03/11 15:35:57	Extended Battery #1	A7W23110001400G	+26.6	+29.7
2024/03/11 15:34:57	Extended Battery #3	A7W23110002000G	+24.0	+28.1
2024/03/11 15:34:57	Extended Battery #2	A7W23110001100G	+25.4	+29.0
2024/03/11 15:34:57	Extended Battery #1	A7W23110001400G	+26.6	+29.7

図内 番号	項目名	説明
①	日時	UPS の状態を取得した日時。
②	増設バッテリー ID	UPS の型式
②	シリアル No.	入力電圧と入力周波数
④	最大バッテリー温度 (°C)	バッテリー温度の最大値
⑤	ヒートシンク温度 (°C)	ヒートシンクの温度
⑥	エクスポート	クリックすると CSV 形式のファイルとして増設バッテリーログを外部出力で きます

 お願い

増設バッテリーログが記録されるのは BV100REX が接続されている場合のみとなります。

BV100REX 以外の UPS が接続されている場合、または BV100REX に増設バッテリーが接続されていない場合は記録されません。

5-3-6 ログ設定

各ログに関する設定を行います。



アイコンをクリックすると、以下の画面が表示されます。

ログ設定 ×

① イベントログ
最大記録件数
1000 ⓘ

② 操作履歴ログ
最大記録件数
1000 ⓘ

③ タスク履歴ログ
最大記録件数
1000 ⓘ

④ スクリプトのログを保存する

⑤ データログ
記録期間
15 週 ⓘ

⑥ 記録間隔(通常運転時)
60 秒 ⓘ

⑦ 記録間隔(バッテリー運転時)
10 秒 ⓘ

⑧ 増設バッテリーログ
記録期間
15 週 ⓘ

⑨ 記録間隔
60 秒 ⓘ

保存

図内 番号	項目名	説明
①	イベントログ 最大記録件数	イベントログを記録可能な最大件数。
②	操作履歴ログ 最大記録件数	操作履歴ログを記録可能な最大件数。
③	タスク履歴ログ 最大記録件数	タスク履歴ログを記録可能な最大件数。
④	スクリプトのログを保存する	タスク実行時のスクリプトのログを保存する場合はチェックを入れる。
⑤	データログ 記録期間	データログを記録可能な最大期間。
⑥	データログ 記録間隔 (通常運転時)	通常運転時のデータログの記録間隔。
⑦	データログ 記録間隔 (バッテリー運転時)	バッテリー運転時のデータログの記録間隔。
⑧	増設バッテリーログ 記録期間	増設バッテリーログを記録可能な最大期間。
⑨	増設バッテリーログ 記録間隔	増設バッテリーログの記録間隔。

設定が終わったら [保存] ボタンをクリックして設定を保存してください。

5-4 連携シャットダウン

複数のコンピュータが1台のUPSから電源を供給されている構成において、入力電源異常（停電など）が発生した場合に、ネットワークで連携してすべてのコンピュータをシャットダウンすることができます。すべてのコンピュータに本ソフトウェアをインストールして、USB または RS-232C でUPS と直接通信可能なコンピュータをプライマリ、それ以外のコンピュータをセカンダリに設定します。

5-4-1 プライマリ設定

USB または RS-232C でUPS と直接通信可能なコンピュータはプライマリとして使用します。連携シャットダウンを使用しない場合（UPS に接続するコンピュータが1台のみの場合）も、プライマリとして使用します。

「プライマリ設定」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Mobile Shutdown' (連携シャットダウン) configuration page. The 'Secondary Communication' (セカンダリとの通信) toggle is set to 'Start' (開始). The host name is 'MLRF1215' and the port number is '401'. Red boxes and numbers 1, 2, and 3 highlight these specific settings.

図内番号	項目名	説明
①	セカンダリとの通信	セカンダリとの通信の「停止」「開始」を設定します。 「開始」に設定するとセカンダリとの通信が可能となります。 (セカンダリからの通信を受信した場合に応答します) 連携シャットダウンを使用しない場合（UPS に接続するコンピュータが1台のみの場合）は、「停止」に設定してください。
②	ホスト名	プライマリとして動作しているコンピュータのホスト名が表示されます。
③	ポート番号	セカンダリとの通信に使用するポート番号を設定します。 基本的には初期値のままです問題ありませんが、本ソフトウェア以外のソフトウェアが使用するポート番号と重複している場合など、必要に応じて変更してください。必ずセカンダリと同じポート番号を設定してください。 設定したポート番号で通信ができるように、プライマリとセカンダリの双方のコンピュータにファイアウォールの設定が必要です。設定したポート番号のTCP パケットが通信できるように設定してください。

設定が終わったら [保存] ボタンをクリックして設定を保存してください。

お願い

「セカンダリとの通信」が「開始」になっている場合は、他のモードに変更することはできません。変更する場合は、「停止」にしてから他のモードを選択してください。

連携シャットダウンは、セカンダリからプライマリに対して通信を行って、入力電源異常（停電など）が発生しているかどうかを確認する仕組みになっています。

このため、プライマリには接続先としてのセカンダリの情報を入力する必要はありません。セカンダリとの通信で使用するポート番号を設定するのみです。

5-4-2 セカンダリ設定（プライマリと連携）

本ソフトウェアがプライマリとして動作しているコンピュータと連携する場合には、本モードに設定します。

「セカンダリ設定（プライマリと連携）」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

図内番号	項目名	説明
①	プライマリとの通信	プライマリとの通信の「停止」「開始」を設定します。 「開始」に設定すると「連携先アドレス」で設定したプライマリとの通信を開始します。
②	連携先アドレス	連携するプライマリの IP アドレスを設定します。
③	ポート番号	プライマリとの通信に使用するポート番号を設定します。 基本的には初期値のままです問題ありませんが、本ソフトウェア以外のソフトウェアが使用するポート番号と重複している場合など、必要に応じて変更してください。必ずプライマリと同じポート番号を設定してください。 設定したポート番号で通信ができるように、プライマリとセカンダリの双方のコンピュータにファイアウォールの設定が必要です。設定したポート番号の TCP パケットが通信できるように設定してください。
④	OS シャットダウンのモード	セカンダリが動作しているコンピュータの OS のシャットダウンモードを選択します。「シャットダウン」「休止」から選択します。 コンピュータが「休止」をサポートしていない場合、OS のシャットダウン設定で「休止状態」が有効になっていない場合は、本ソフトウェアの「OS シャットダウンのモード」の選択項目として「休止」は表示されません。
⑤	死活監視	クリックすると「連携先アドレス」で設定したプライマリへ ping を送信します。設定したプライマリと通信可能であるか確認できます。

設定が終わったら [保存] ボタンをクリックして設定を保存してください。
 保存すると以下のような画面になります。「プライマリとの通信」を「有効」にするとプライマリとの通信を開始します。

お願い

「プライマリとの通信」が「開始」になっている場合は、他のモードに変更することはできません。
 変更する場合は、「停止」にしてから他のモードを選択してください。

5-4-3 セカンダリ設定（ネットワークカードと連携）

本ソフトウェアが UPS に装着されているネットワークカードと連携する場合には、本モードに設定します。本モードで使用できるネットワークカードは、SC22、SC21、SC20G2 の 3 機種です。

「セカンダリ設定（ネットワークカードと連携）」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

図内番号	項目名	説明
①	ネットワークカードとの通信	ネットワークカードとの通信の「停止」「開始」を設定します。 「開始」に設定すると「連携先アドレス」で設定したネットワークカードとの通信を開始します。
②	連携先アドレス	連携するネットワークカードの IP アドレスを設定します。
③	ポート番号	ネットワークカードとの通信に使用するポート番号を設定します。 基本的には初期値のままです問題ありませんが、本ソフトウェア以外のソフトウェアが使用するポート番号と重複している場合など、必要に応じて変更してください。必ずネットワークカードと同じポート番号を設定してください。

図内 番号	項目名	説明
		設定したポート番号で通信ができるように、セカンダリのコンピュータにファイアウォールの設定が必要です。設定したポート番号の TCP パケットが通信できるように設定してください。
④	コミュニティ	プライマリとの通信に使用するコミュニティを設定します。 基本的には初期値のままです問題ありませんが、ネットワークカードのコミュニティの設定が初期値から変更されている場合は、必ずネットワークカードと同じ設定にしてください。 ※コミュニティの詳細については、ネットワークカードの取扱説明書をご確認ください。
⑤	待機時間	ネットワークカードの待機時間の設定と同じ値を設定してください。 ※ネットワークカードに設定している待機時間内に復電した場合は、シャットダウン動作はキャンセルされます。ネットワークカードに連携しているセカンダリでも同じ動作を実現するために、ネットワークカードと同じ値で設定します。
⑥	OS シャットダウンのモード	セカンダリが動作しているコンピュータの OS のシャットダウンモードを選択します。「シャットダウン」「休止」から選択します。 コンピュータが「休止」をサポートしていない場合、OS のシャットダウン設定で「休止状態」が有効になっていない場合は、本ソフトウェアの「OS シャットダウンのモード」の選択項目として「休止」は表示されません。
⑦	死活監視	クリックすると「連携先アドレス」で設定したネットワークカードへ ping を送信します。設定したネットワークカードと通信可能であるか確認できます。

設定が終わったら [保存] ボタンをクリックして設定を保存してください。

保存すると以下のような画面になります。「ネットワークカードとの通信」を「有効」にするとネットワークカードとの通信を開始します

The screenshot shows the 'PowerAttendant Standard Edition' web interface. At the top, there's a navigation bar with 'Admin' and 'ログアウト' buttons. Below that, a status bar indicates 'ネットワークカードとの通信 停止'. The main content area is titled '連携シャットダウン' and shows three tabs: 'プライマリ設定', 'セカンダリ設定: プライマリと連携', and 'セカンダリ設定: ネットワークカードと連携'. The 'セカンダリ設定: ネットワークカードと連携' tab is active. Underneath, there's a section for 'ネットワークカードとの通信' with a toggle switch set to '開始'. Below this, there are input fields for '連携先アドレス' (192.168.100.200), 'ポート番号' (161), and 'コミュニティ' (public). There are also fields for '待機時間' (60) and 'OSシャットダウンのモード' (シャットダウン). At the bottom of this section are '保存' and '死活確認' buttons. On the left side, there's a sidebar with navigation options like 'トップ', 'シャットダウンパラメータ', 'ログ', and '詳細設定'.

お願い

「ネットワークカードとの通信」が「開始」になっている場合は、他のモードに変更することはできません。

変更する場合は、「停止」にしてから他のモードを選択してください。

5-5 スマートタスク

入力電源異常時など、設定した起動条件が発生した場合に、スクリプトを実行することができます。その実行するスクリプトと、スクリプトの実行先となる通信ターゲットをタスクとして登録します。例えば、入力電源異常時、同一ネットワーク上に接続されている複数のコンピュータに対して、OS シャットダウンさせるスクリプトファイルを実行することにより、複数コンピュータへのシャットダウン動作を実行できます。

① ② ③ ④ **スマートタスク**

タスク一覧 通信ターゲット一覧 スクリプト一覧 手動実行

タスク登録

#	タスク名	起動条件	スクリプト名	通信ターゲット	実行前待機時間 (秒)	タイムアウト時間 (秒)	実行後待ち時間 (秒)	操作
1	test2	入力電源異常	test	localhost	20	60	20	編集 削除

図内 番号	項目名	説明
①	タスク一覧	登録済のタスクを一覧表示します。 タスクを新規に登録する場合は、この画面の「タスク登録」をクリックして登録画面を表示させます。
②	通信ターゲット一覧	登録済の通信ターゲットを一覧表示します。 通信ターゲットを新規に登録する場合は、この画面の「通信ターゲット登録」をクリックして登録画面を表示させます。
③	スクリプト一覧	登録済のスクリプトを一覧表示します。 スクリプトを新規に登録する場合は、この画面の「スクリプト登録」をクリックして登録画面を表示させます。
④	手動実行	「タスク情報更新」をクリックすると、登録済のタスクを一覧表示します。 手動で実行したいタスクの「実行」ボタンをクリックすると、そのタスクを実行します。 登録したタスクが正常に動作するかテストする際にご使用ください。

5-5-1 タスク一覧

登録済のタスクの一覧が表示されます。

[タスク登録] をクリックすると、タスクを新規登録できます。

「通信ターゲット一覧」と「スクリプト一覧」に表示される、登録済の情報を使用して設定を行いますので、先にそれらを設定してからタスクの登録を行ってください。

スマートタスク								
タスク一覧 通信ターゲット一覧 スクリプト一覧 手動実行								
<input type="button" value="タスク登録"/>								
#	タスク名	起動条件	スクリプト名	通信ターゲット	実行前待機時間 (秒)	タイムアウト時間 (秒)	実行後待ち時間 (秒)	操作
1	test2	入力電源異常	test	localhost	20	60	20	<input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="削除"/>

[タスク登録] をクリックすると、タスクの登録画面が表示されます。

タスク登録 ×

①	タスク名	test2
②	起動条件	入力電源異常 ▼
③	スクリプト名	test ▼
④	通信ターゲット	localhost ▼
⑤	実行前待機時間 (秒)	ⓐ 20
⑥	タイムアウト時間 (秒)	ⓐ 60
⑦	実行後待ち時間 (秒)	ⓐ 20

図内 番号	項目名	説明
①	タスク名	タスクの名称を設定します。
②	起動条件	タスクを起動する条件を設定します。以下の4つから選択します。 「無効」 タスクを登録するのみで実行しない場合に選択します。 「入力電源異常」 入力電源異常（停電など）の発生を条件とする場合に選択します。 「待機時間中の復電」 待機時間中に復電した場合を条件とする場合に選択します。 「システムシャットダウン前」 シャットダウンを実行する直前を条件とする場合に選択します。
③	スクリプト名	登録済のスクリプトの中から選択します。
④	通信ターゲット	登録済の通信ターゲットの中から選択します。
⑤	実行前待機時間	タスクを実行する前に待機時間が必要な場合に設定します。

図内 番号	項目名	説明
⑥	タイムアウト時間	タスクを実行するのに十分な時間を設定します。 この時間を経過するとタスクの実行を終了して実行後待ち時間に移行します。 タスクの処理が途中で止まってしまった場合でも、本ソフトウェアの動作が止まったままにならないように、タイムアウト時間として設定します。
⑦	実行後待ち時間	タスクを実行した後に待機時間が必要な場合に設定します。

設定が終わったら [登録] ボタンをクリックして設定を登録してください。

5-5-2 通信ターゲット一覧

登録済のタスクの一覧が表示されます。

[通信ターゲット登録] をクリックすると、通信ターゲットを新規登録できます。

スマートタスク

タスク一覧 通信ターゲット一覧 スクリプト一覧 手動実行

通信ターゲット登録

#	アドレス	ログインID	方式	ポート	文字コード	OS種類	操作
1	localhost		Local		UTF-8	Windows	編集
2	192.168.100.100	omron	SSH2	22	UTF-8	Windows	編集 削除

[通信ターゲット登録] をクリックすると、通信ターゲット登録の登録画面が表示されます。

通信ターゲット登録 ×

① 方式 SSH2

② アドレス 192.168.100.100

③ ログインID omron

④ パスワード

⑤ ポート 22

⑥ 文字コード UTF-8

⑦ OS種類 Windows

⑧ 実行コード CRLF

登録

図内 番号	項目名	設定内容
①	方式	タスクの実行先となる通信ターゲットと接続する方式を、以下の3つから選択します。 「Local」 本ソフトウェアをインストールしているコンピュータ自身でタスクを実行する場合に選択します。 「SSH2」 SSHで接続する場合に選択します。バージョン2のみに対応しています。 「Telnet」 Telnetで接続する場合に選択します。
②	アドレス	接続先のIPアドレスを設定します。
③	ログインID	接続先にログインするためのIDを設定します。
④	パスワード	接続先にログインするためのパスワードを設定します。
⑤	ポート	接続先との通信で使用するポート番号を設定します。 「方式」でSSH2を選択した場合は22が、Telnetを選択した場合は23が自動的に選択されます。これらのポート番号以外で通信する必要がある場合は変更してください。
⑥	文字コード	使用する文字コードを選択します。 スクリプト実行対象の環境に合わせて選択してください。
⑦	OS種類	接続先のコンピュータのOSを選択します。 「Windows」「Linux」「その他」から選択します。
⑧	改行コード	使用する改行コードを選択します。 「OSの種類」で「Windows」選択した場合は「CRLF」が、Linuxを選択した場合は「LF」が自動的に設定されます。「その他」を選択した場合は、「CRLF」「LF」「CR」から環境に合わせて選択してください。

設定が終わったら [登録] ボタンをクリックして設定を登録してください。

5-5-3 スクリプト一覧

登録済のタスクの一覧が表示されます。

[スクリプト登録] をクリックすると、スクリプトを新規登録できます。

スマートタスク

① 一覧 通信ターゲット一覧 スクリプト! ② 動実行

スクリプト登録
スクリプト変数編集

#	スクリプト名	操作
1	test	エクスポート 編集 削除

③ ④ ⑤

図内 番号	項目名	設定内容
①	スクリプト登録	クリックすると、スクリプトの登録画面が表示されます。
②	スクリプト変数 編集	クリックすると、スクリプトで使用する変数の編集画面が表示されます。
③	エクスポート	クリックすると、スクリプトの内容をファイルに出力します。
④	編集	クリックすると、登録済のスクリプトの編集画面が表示されます。
⑤	削除	クリックすると、スクリプトを削除します。

スクリプト登録

[スクリプト登録] をクリックすると、スクリプト登録の登録画面が表示されます。

[インポート] をクリックすると、スクリプトを記述したファイルをインポートできます。

図内 番号	項目名	設定内容
①	スクリプト名	スクリプトの名称を登録します。
②	プロンプト	接続先のプロンプト文字を設定します。
③	コマンド	接続先で実行するコマンドを設定します。 入力フィールド内で Enter キーを入力すると、行を増やすことができます。
④	終了プロンプト	スクリプトの終了を判断するためのプロンプトを設定します。

設定が終わったら [登録] ボタンをクリックして設定を登録してください。

スクリプト変数編集

スクリプトの中で使用する文字列を変数として最大 9 個まで設定することができます。

よく使用する文字列や長い文字列などを設定しておくくと便利です。

例：

「\$Data1」に「Admin」を設定しておくくと、スクリプトの中で「\$Data1」と記述すると「Admin」と記述するのと同じこととなります。

スクリプトの記述

スクリプトは、設定したプロンプトを受信したらコマンドを実行します。それを繰り返すことで必要な処理を実行します。例えば、接続先からプロンプト文字として「\$」を受信した時に、コマンド `su` を送信する場合は、以下のように記述します。

#	プロンプト	コマンド②
1	\$	su

5-5-4 手動実行

登録したタスクを手動で実行することができます。
タスクが正常に実行されるか確認することができます。

スマートタスク

タスク一覧 通信ターゲット一覧 スクリプト一覧 手動実行

① **タスク情報更新**

#	タスク名	状態	スクリプト名	通信ターゲット	② 実行前待機時間 (秒)	③ タイムアウト時間 (秒)	④ 操作	⑤
1	test2	🗨️	test	localhost	20	60	実行	ログダウンロード

図内番号	項目名	設定内容
①	タスク情報更新	クリックすると、登録済のタスク情報を更新します。
②	実行前待機時間	タスク実行前に待機時間が必要であれば設定します。
③	タイムアウト時間	タスクを実行するのに十分な時間を設定します。 この時間を経過するとタスクを実行中であっても終了します。
④	実行	クリックすると、タスクを実行します。
⑤	ログダウンロード	クリックすると、実行結果のログをダウンロードできます。

例：以下に示すスクリプトをタスクとして登録して手動実行した場合

Windows の VER コマンドを実行するスクリプト「test」

スクリプト編集 インポート

スクリプト名 test

#	プロンプト	コマンド②
1	>	VER

終了プロンプト >

スクリプト「test」をタスク「サンプル」として登録

タスク編集 ×

タスク名 サンプル

起動条件 システムシャットダウン前

スクリプト名 test

通信ターゲット localhost

実行前待機時間 (秒) ② 0

タイムアウト時間 (秒) ② 60

実行後待ち時間 (秒) ② 0

保存

タスク「サンプル」を手動実行した結果のログ（「test.txt」というファイル名でダウンロードされる）

Microsoft Windows [Version 10.0.19045.3930] (c) Microsoft Corporation. All rights reserved.	← ローカル PC にログイン
C:¥Program Files¥OMRON¥PowerAttendant>VER	← VER コマンドを実行
Microsoft Windows [Version 10.0.19045.3930]	← VER コマンドの実行結果
C:¥Program Files¥OMRON¥PowerAttendant>	← 実行終了のプロンプト

上記ログを確認することで、スクリプト「test」が正しく実行されたことを確認できた。

5-6 スケジュール

あらかじめ決まった日時に、本ソフトウェアをインストールしたコンピュータと UPS に、以下の動作を実行させることができます。

動作種類	内容
UPS の停止	シャットダウンパラメータ設定に基づいて、UPS に接続されているコンピュータの OS をシャットダウンした後、UPS を停止します。
UPS の停止／起動	「UPS の停止動作」後、指定時間後に UPS を自動起動します。
自己診断テスト	UPS の自己診断テストを実行します。

メニューから「スケジュール」を選択すると、以下の画面が表示されます。

[スケジュール登録] をクリックすると、スケジュールの登録画面が表示されます。

図内 番号	項目名	設定内容
①	タイトル	設定するスケジュールの名称を設定します。
②	開始日	スケジュールを最初に実行する年月日を設定します。
③	開始時刻	スケジュールの開始時間を設定します。
④	パターン	スケジュールを実行するパターンを選択します。
⑤	動作	スケジュールで実行する動作を設定します。

 参考

- ・設定画面操作中でもスケジュール動作は実行されます。

「パターン」は3種類から選択できますが、どのパターンの場合も、設定した「開始日」「開始時刻」が、スケジュール動作を実行する最初の日時になります。

このため、まずはスケジュールを最初に実行したい日時を設定してください。

開始日と開始時刻はアイコンをクリックして設定してください。

直接入力も可能です。



設定が終わったら [登録] ボタンをクリックして設定を登録してください。

5-6-1 スケジュール登録

スケジュールの登録パターンは3種類あります。

特定の日のみ実行したい場合

設定した日時に1回のみ実行したい場合の設定方法です。

「パターン」の設定で「一度だけ」を選択してください。

スケジュール

スケジュール登録

		登録	キャンセル
タイトル	メンテナンス1		
開始日	2023/07/15	📅	
開始時刻	09:00	🕒	
パターン			
<input checked="" type="radio"/> 一度だけ			
<input type="radio"/> 1週間ごと			
<input type="radio"/> 1ヶ月ごと			

特定の曜日に実行したい場合

設定した曜日に実行したい場合の設定方法です。

「パターン」の設定で「1週間ごと」を選択してください。

スケジュール

スケジュール登録

		登録	キャンセル
タイトル	メンテナンス1		
開始日	2023/07/15	📅	
開始時刻	09:00	🕒	
パターン			
<input type="radio"/> 一度だけ			
<input checked="" type="radio"/> 1週間ごと			
<input type="checkbox"/> 日曜日			
<input type="checkbox"/> 月曜日			
<input type="checkbox"/> 火曜日			
<input type="checkbox"/> 水曜日			
<input type="checkbox"/> 木曜日			
<input type="checkbox"/> 金曜日			
<input checked="" type="checkbox"/> 土曜日			
<input type="radio"/> 1ヶ月ごと			

「開始日」で設定した日付の曜日が自動的に選択されます。

(上記例では、2023年7月15日は土曜日なので、土曜日には自動的にチェックが入ります)

他の曜日もスケジュールを実行したい場合は、チェックを入れて追加することができます。

開始日	2023/07/15	
開始時刻	00:00	

パターン

一度だけ

1週間ごと 日曜日 月曜日 火曜日 水曜日 木曜日 金曜日 土曜日

このように木曜日を追加した場合は、最初のスケジュール実行日は7月15日（土）になります。このため、チェックを入れた木曜日は、翌週の7月20日（木）として取り扱われます。全ての曜日にチェックを入れた場合は、すべての曜日でスケジュールが実行されます。毎日実行したい場合はすべての曜日にチェックを入れてください。

毎月決まった日に実行したい場合

設定した日に毎月実行したい場合の設定方法です。
「パターン」の設定で「1ヶ月ごと」を選択してください。
「開始日」で設定した日付が自動的に選択されます。

スケジュール

スケジュール登録

タイトル	メンテナンス1
開始日	2023/07/15
開始時刻	09:00

パターン

一度だけ

1週間ごと

1ヶ月ごと 15日 翌月以降に該当日が存在しない場合、最終日に実行します

常に月の最終日

31日のように翌月以降に該当日が存在しない場合がある日付を設定した場合は、「翌月以降に該当日が存在しない場合、最終日に実行します」が設定可能となります。この設定にチェックが入っている場合は、毎月最終日にスケジュールを実行します。チェックが入っていない場合は、31日のみ実行することになるため、30日や28日が最終日となる月はスケジュールが実行されません。

「常に月の最終日」を選択した場合は、毎月必ず月末最終日にスケジュールを実行します。

お願い

- ・同じ日時複数のスケジュールを登録した場合は、登録したスケジュールがどの順番に実行されるか特定することができません。時刻をズラして登録してください。

5-6-2 動作

スケジュールで設定した日時に実行する動作を設定します。

動作

① OSシャットダウン

② UPS出力停止

③ 設定時間経過後に出力開始する 0 日 12 時間 0 分

④ 停止したままで出力開始しない

図内 番号	項目名	設定内容
①	動作	スケジュール設定した日時に実行する動作を選択します。 「OS シャットダウン」「UPS 自己診断テスト」から選択します。
②	UPS 出力停止	チェックを入れると、スケジュール実行後に UPS の出力を停止します。 チェックが入っていない場合は、動作を実行するのみで UPS の出力は停止しません。
③	設定時間経過後 に出力開始する	シャットダウンを実行した後、設定した時間を経過したら UPS の出力を開始したい場合に選択します。 UPS に接続したコンピュータのシャットダウンと再起動をスケジュール運転したい場合などに設定します。
④	停止したままで 出力開始しない	シャットダウンを実行した後、UPS の出力を停止したままとしたい場合に選択します。

お願い

- ・動作で「UPS 自己診断テスト」を選択した場合は、シャットダウンは実行しないため、②③④の項目は画面上に表示されません。
- ・「UPS 出力停止」にチェックが入っていない場合は、UPS の出力は停止しないため、③④の項目は画面上に表示されません。

5-7 COM 設定

UPS と RS-232C 接続する場合に使用する COM ポートを設定します。
UPS と COM 接続する場合は、最初にこの設定を行ってください。

 参考

本設定項目は、UPS と RS-232C で接続した場合のみ有効となります。

COMポート設定



図内 番号	項目名	設定内容
①	UPS との接続に使用する COM ポートの選択	UPS との接続に使用する COM ポートを選択してください。 ※本ソフトウェアをインストールしているコンピュータで使用可能な COM ポートが候補として表示されます。
②	UPS との接続	UPS と COM ポートで接続する場合に [接続] ボタンをクリックします。
③	UPS との切断	COM ポートで接続している UPS と切断する場合に [切断] ボタンをクリックします。

設定した COM ポートでの接続が確立すると、接続方式に COM と表示されます。



OMRON PowerAttendant Standard Edition Admin ログアウト

型式:BU50SW 運転状態: 通常運転中 バッテリー状態:正常 100%


接続方式:COM

COMポート設定

UPSとの接続に使用するCOMポートの選択 COM3 ▾

UPSとの接続 接続

UPSとの切断 切断

 お願い

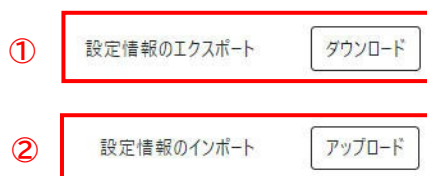
別の UPS との USB 接続に変更する場合など、COM ポートでの接続をやめる場合には、[切断] をクリックして COM 接続を切断してから変更を行ってください。

5-8 設定ファイル

本ソフトウェアの設定情報を、外部にファイルとしてエクスポートしたり、エクスポートしたファイルをインポートしたりすることができます。

設定情報を保存したり、他のコンピュータにインストールした本ソフトウェアに設定情報をコピーする場合などに使用できます。

設定ファイル



図内 番号	項目名	設定内容
①	設定情報のエクスポート	[ダウンロード] をクリックすると、設定情報をエクスポートします。
②	設定情報のインポート	[アップロード] をクリックすると、設定情報をインポートします。

5-9 UPS 設定

UPS 本体の設定や、内蔵バッテリーの交換日などについて設定できます。
接続している UPS の機種によって、表示される画面が異なります。

参考

- ・本設定項目は、UPS 本体が対応する機能を持たない機種では設定項目として表示されません。
- ・本設定項目の機能についての詳細は、UPS 本体の取扱説明書を参照してください。

5-9-1 基本設定

以下の画面は基本設定画面の表示例です。どのような設定項目が表示されるかについては、接続している UPS の機種により異なります。

以下の設定項目の中から、接続している UPS が対応している項目のみ表示されます。

項目名	設定内容
バッテリー自動テスト	UPS 本体で、バッテリー自動テストを行うようにするかどうかを設定します。
出力開始時自己診断テスト	出力開始時に自己診断テストを実行するかどうかを設定します。
ブザー設定	ブザーを鳴らす設定について、以下の 3 候補から選択します。 「常时无効」「バッテリー運転时无効」「常时有効」
入力感度	入力感度の設定について、以下の 3 候補から選択します。 「標準感度」「高感度」「低感度」
出力電圧	出力電圧について設定します。
UPS 使用開始日	UPS の使用開始日を設定します。
バッテリー交換日	バッテリーの交換日を設定します。 接続している UPS が BV100REX の場合のみ「増設バッテリー交換日」が設定項目として表示されます。

[保存] ボタンがある設定項目については、設定が終わったら [保存] ボタンをクリックして設定を保存してください。

5-9-2 出力開始設定

UPS 起動時の出力の制御に関する設定を行います。
接続している UPS の機種によって、表示される画面が異なります。

出力コンセント制御機能を持っていない UPS の場合
例：BW55T

出力コンセント制御機能を持っている UPS の場合
例：BV55RE

以下の設定項目の中から、接続している UPS が対応している項目のみ表示されます。

項目名	設定内容
UPS の出力開始遅延	UPS 起動時の出力開始時に遅延をかけたい場合に設定します。
コンセント A の出力開始遅延	出力コンセント A に出力開始遅延をかけたい場合に設定します。
コンセント B の出力開始遅延	出力コンセント B に出力開始遅延をかけたい場合に設定します。
コンセント C の出力開始遅延	出力コンセント C に出力開始遅延をかけたい場合に設定します。
UPS コールドスタート	UPS のコールドスタートについて設定します。

項目名	設定内容
	有効になっている場合は、UPS への AC 入力がない場合でも、バッテリーを使って UPS を起動することが可能です。
UPS 自動起動	UPS の自動起動について設定します。 有効になっている場合は、復電時に UPS が自動的に起動します。
出力開始バッテリー残量閾値	バッテリー残量がどのくらいあれば出力開始するかの閾値を設定します。

[保存] ボタンがある設定項目については、設定が終わったら [保存] ボタンをクリックして設定を保存してください。

5-10 UPS 制御

UPS の制御を行います。接続している UPS の機種によって、表示される画面が異なります。

参考

- ・本項目は、UPS 本体が対応する機能を持たない機種では項目として表示されません。
- ・本項目の機能についての詳細は、UPS 本体の取扱説明書を参照してください。

出力コンセント制御機能を持っていない UPS の場合

例：BW55T

UPS制御

ブザーテスト

鳴らす

自己診断テスト

実行

出力コンセント制御機能を持っている UPS の場合

例：BV55RE

UPS制御

ブザーテスト

鳴らす

自己診断テスト

実行

出力制御

コンセントAの出力

有効

無効

コンセントBの出力

有効

無効

コンセントCの出力

有効

無効

以下の項目の中から、接続している UPS が対応している項目のみ表示されます。

図内 番号	項目名	設定内容
①	ブザーテスト	[鳴らす] をクリックするとブザーが鳴ります。 ブザーが故障していないか確認する際にご使用ください。
②	自己診断テスト	[実行] をクリックすると自己診断テストを実行します。 UPS が故障していないか確認する際にご使用ください。
③	出力制御	[有効]「無効」をクリックして、出力コンセント A/B/C からの出力の有効と無効を制御します

5-11 ユーザ管理

ユーザのログイン ID とパスワードを変更できます。

5-11-1 パスワード変更

登録しているユーザのパスワードを変更します。

ユーザ管理

パスワード変更 ログインID変更

① 現在のパスワード

② 新しいパスワード

③ 新しいパスワード (再入力)

保存

図内 番号	項目名	設定内容
①	現在のパスワード	現在設定しているパスワードを入力します。
②	新しいパスワード	新しいパスワードを入力します。
③	新しいパスワード (再入力)	確認のため新しいパスワードを再入力します。

パスワードは、**8 文字以上 32 文字以下**で設定してください。

英大文字、英小文字、数字、記号を必ず **1 文字以上**使用してください。

(記号については、「”」と「,」は使用できません)

設定が終わったら [保存] ボタンをクリックして設定を保存してください。

再ログインするようにメッセージが表示されますので、[OK] をクリックして設定した新しいパスワードで再度ログインしてください。

 お願い

- ・本ソフトウェアで設定変更を行うためにはログインする必要があります。
このため、変更したパスワードの情報は、忘れないように管理してください。

5-11-2 ログイン ID 変更

登録しているユーザのパスワードを変更します。

ユーザ管理

[パスワード変更](#) [ログインID変更](#)

① 文字数：1~128

図内 番号	項目名	設定内容	設定値
①	新しいログイン ID	新しいログイン ID を入力します。	

ログイン ID は、1 文字以上 128 文字以下で設定してください。

設定が終わったら [保存] ボタンをクリックして設定を保存してください。

ログイン ID 変更の確認メッセージが表示されますので、[はい] をクリックしてください。

再ログインするようにメッセージが表示されますので、[OK] をクリックして設定した新しいパスワードで再度ログインしてください。

お願い

- ・本ソフトウェアで設定変更を行うためにはログインする必要があります。
このため、変更したログイン ID の情報は、忘れないように管理してください。

5-12 その他

UPS に直接コマンドを送信します。

 参考

オムロン電子機器カスタマサポート等で指示があった場合使用してください。

その他

コマンド送信

メンテナンスまたはカスタマサポートが使用する機能です

①

②

図内 番号	項目名	設定内容
①	コマンド送信	UPS のコマンドを入力して [送信] ボタンをクリックします。
②	コマンド応答	UPS からの応答が表示されます。

5-13 ヘルプ

5-13-1 バージョン情報

本ソフトウェアや接続している UPS、使用環境などに関する情報を表示します。

PowerAttendant の情報

インストールしている本ソフトウェアに関する情報を表示します。

バージョン情報

PowerAttendantの情報 接続しているUPSの情報 PC情報

- ① バージョン番号
Standard Edition 1.1.0
- ② リリース日
2024/04/08
- ③ ライセンス

図内 番号	項目名	表示内容
①	バージョン情報	本ソフトウェアのバージョン。
②	リリース日	本ソフトウェアのリリース日。
③	ライセンス	[ライセンス] をクリックすると、本ソフトウェアで使用しているオープンソースに関する情報が表示されます。

接続している UPS の情報


接続している UPS に関する情報を表示します。

バージョン情報

PowerAttendantの情報 接続しているUPSの情報 PC情報

- ① 型式
BW55T
- ② シリアルNo.
A4B18100110101G
- ③ ファームウェアのバージョン
M:0.27(S:1.00)

図内 番号	項目名	表示内容
①	型式	接続している UPS の型式。
②	シリアル No.	接続している UPS の製造番号。
③	ファームウェア のバージョン	接続している UPS のファームウェアのバージョン。

 参考

- ・UPS 型式が BV100REX で増設バッテリーユニットが接続されている場合は、増設バッテリーユニットに関する情報も表示されます。

PC 情報

本ソフトウェアをインストールしているコンピュータに関する情報を表示します。

バージョン情報

PowerAttendantの情報 接続しているUPSの情報 PC情報

- ① カーネルのバージョン
Microsoft Windows NT 10.0.19044.0
- ② ホスト名
test
- ③ .Netのバージョン
6.0.16

図内 番号	項目名	表示内容
①	カーネルのバージョン	カーネルのバージョン。OS のバージョンではありません。 ※カーネルとは、OS の基本機能の役割を担うソフトウェアのことです。
②	ホスト名	ホスト名。
③	.Net のバージョン	インストールしてある .NET のバージョン。

6. アンインストール

本ソフトウェアのアンインストール手順について説明します。

 お願い

他のシャットダウンソフトウェアを使用する場合は、必ず本ソフトウェアをアンインストールしてください。

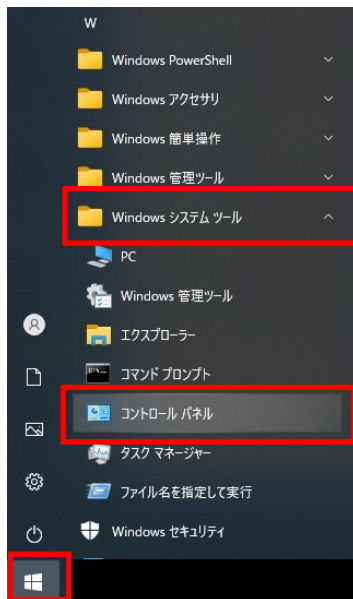
本ソフトウェアがインストールされたままだと、UPS が正常に認識されない場合があります。

6-1 アンインストールの前に

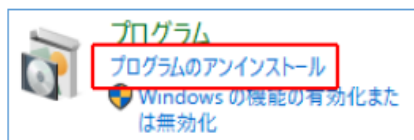
- ・ Administrator 権限のあるユーザ名でコンピュータにログインしてください。
- ・ 起動している他のアプリケーションを終了してください。

6-2 本ソフトウェアのアンインストール

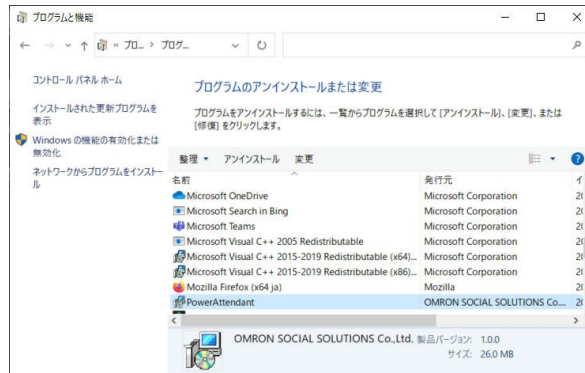
1. Windows の「スタート」ボタン→[Windows システムツール] → [コントロールパネル]を選択します。



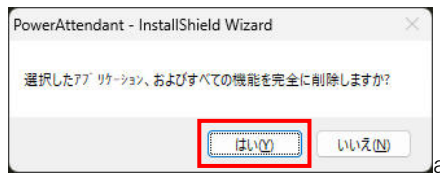
2. プログラム内の「プログラムのアンインストール」をクリックします。



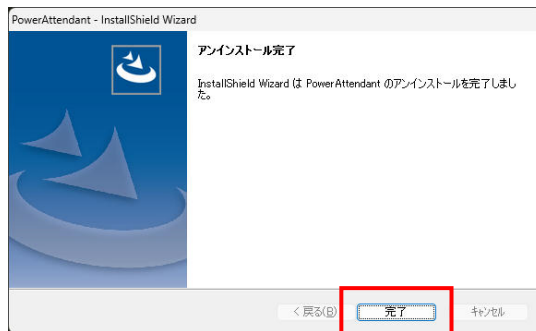
3. 「PowerAttendant」をダブルクリックします。



4. [はい(Y)] ボタンをクリックします



5. [完了] ボタンをクリックします。



6. 以上で、本ソフトウェアのアンインストールは終了です。

📖 参考

・本ソフトウェアは上記手順の他に、インストールされているものと同じバージョンの **Setup.exe** を起動してアンインストールすることができます。

7. トラブルシューティング

現象	原因	対策
本ソフトウェアのインストール時にエラーメッセージが表示された。	.NET をインストールする前に本ソフトウェアをインストールしてしまった。	<ul style="list-style-type: none"> ・インストールが最後まで完了した場合は、.NET のインストールを行ってから、コンピュータを再起動してください。 ・それでも本ソフトウェアが起動できない場合は、本ソフトウェアをアンインストールしてから、再インストールしてください。
連携シャットダウン機能が動作しない。	通信設定が有効になっていない。 ポート番号が異なっている。 LAN ケーブルが外れている。	<ul style="list-style-type: none"> ・プライマリと連携する場合は、プライマリとセカンダリの両方で通信が有効になっている必要があります。プライマリ側の「セカンダリとの通信」、セカンダリ側の「プライマリとの通信」が「有効」になっていることを確認してください。 ネットワークカードと連携する場合は、セカンダリ側の「ネットワークカードとの通信」が有効になっていることを確認してください。 ・プライマリ/ネットワークカードとセカンダリで、同じポート番号が設定してあるか確認してください。 ・ネットワークカードと連携する場合は、セカンダリの「コミュニティ」の設定が、ネットワークカードと同じであるか確認してください。 ・プライマリ/ネットワークカードとセカンダリ間の LAN ケーブルが接続されているか確認してください。 ・設定したポート番号で通信ができるように、プライマリとセカンダリの双方のコンピュータにファイアウォールの設定が必要です。設定したポート番号で通信できるように設定してください。
インストール後の初回ログインで設定ボタンをクリックしても反応しない。	ご使用のブラウザが対応していない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ご使用のブラウザが対応のブラウザかご確認をお願いします。

お問い合わせ窓口のご案内

製品に関するお問い合わせ窓口

オムロン 電子機器カスタマサポート センタ

 **0120-77-4717** **FAX 03-6718-3632**

受付時間：月曜日～金曜日（祝祭日、当社の休日を除く）
9：00～17：30（12：00～13：00を除く）

メールアドレス：omron_support@omron.com

修理に関するお問い合わせ窓口

オムロン 電子機器修理センタ

TEL 03-6718-3636 **FAX 03-6718-3640**

受付時間：月曜日～金曜日（祝祭日、当社の休日を除く）
9：30～17：00（12：00～13：00を除く）

メールアドレス：omron_syuri@omron.com

リプレイスサービスのご案内

ご不要になった無停電電源装置（UPS）やバッテリーは、オムロン ソーシャルソリューションズにて無料でお引取りいたします。こちらの Web サイトで詳しくご案内しております。

https://socialsolution.omron.com/jp/ja/products_service/ups/support/replace.html

オムロンソーシャルソリューションズ株式会社

IoT ソリューション 事業本部

〒108-0075 東京都港区港南 2-3-13 品川フロントビル 7F

TEL 03-6718-3630

製品の最新情報はホームページをご覧ください。

https://socialsolution.omron.com/jp/ja/products_service/ups/

